

[文献目録]

家族社会学参考文献目録

(1945~59)

附：戦後に於ける家族研究の動向

森 岡 清 美

凡 例

〔一〕 この目録に収められた文献の範囲

1. 家族社会学に関する日本の文献をあつめた。但し、戦後の1945年から1959年末までの15年間に限ったのは、それ以前について小山隆編「日本家族研究文献」(1949~50刊)があるからである。
2. 文献の取捨選択はきわめて問題の多い作業であるが、便宜上、社会学者と見なされている人々の家族研究と、社会学の専門雑誌に掲載された家族研究をまず拾い出し、ついで他の領域の雑誌や各大学の紀要、さらに国会図書館刊行の雑誌記事索引によって、関係科学である人口学・心理学・家政学・農業経済学・民俗学・民族学・歴史学、および実証的である限り教育学や法社会学の分野の家族研究をも、能う限り含めた。
3. 親族・同族・民族は家族に並ぶ別のジャンルを構成すると考えられるばかりでなく、この方面の文献目録作製には別に適任者があると思うので、本目録では割愛した。また、家族と親族・家族と村落・家族と階級・家族と社会など、家族をより大きな集団(社会)との関係においてとりあげた文献も、収録しなかった。それは、個人の蒐集能力の限界を超える仕事と思われたからである。
4. 家族法に関する文献は原則として省いた。この分野については唄孝一編「家族法参考文献目録」(1952刊)がある。
5. 貧困世帯・母子世帯に関する文献の収録は充分でないが、必要のむきは、言

田久一・岡山礼子・一番ヶ瀬康子編「ボーダー・ライン層に関する文献目録」(1956刊)を参照されたい。

## 〔二〕 分類と排列のしかた

1. 小山隆氏の分類を底に置き、数多くの文献自体について分類のさまざまな試みをテストした末、目次に示すような分類をたててみた。
2. いくつかの項目にわたるものは、それぞれの個所で何度でも掲載した方が便利であるが、主として書写の手間を省くため、何れも一回しか掲げていない。そこで項目への帰属のさせかたを説明しておく。まず、分類不可能なものは(1)総説におさめ、外国の家族をとりあつかった文献は内容の如何を問わずすべて(2)外国の家族へ投入した。また、婚姻・離婚・家族構成などに関するものでも、より人口学的分析とみなしうるものは優先的に(4)家族の人口論に含めた。家族史のうち、とくに婚姻史に関する文献は、(3)から外して(2)婚姻へおさめた。(4)問題の家族に属するものも、(5)家族の形態や(7)家族の機能を中心とする文献は、後者に含めた。(9)農山漁村家族・(10)都市家族という地域による区分は、(1)総説を除いて他の何れにも属せしめえないときに用いた。したがって、例えば「都市における家族構成」という論文は、(10)都市家族ではなく、(5)家族の形態におさめられている。
3. 項目毎に発表の年次を追うて排列した。但し、同じ著者の論文は各項目のなかで一括し、年序により並べた。

## 〔三〕 その他

1. 単行本(謄写印刷を含む)は\*印をもって示し、著者名、書名、出版社名(出版年月)頁数、の順に表記した。
2. 論文は、筆者名「論文題目」掲載誌名何巻:何号(刊行年月)〔あるいは収録書名(編者名、出版社名、出版年月)〕何頁—何頁、の順に表記した。
3. この目録の原形は、東京教育大学社会学研究室資料 No.1として1959年6月に謄写印刷に付した「家族社会学文献目録」である。それを基礎とし、同年12月末現在にて増補を加えた。
4. 1と2に示した表記事項の完全でない文献は、増補の過程においても編者がまだ手にとって見ることのできなかつたものである。したがって、取捨・分類ともに当をえていないことをおそれる。

家族社会学参考文献目録 (1945—59)

目 次

1. 総 説 .....	190
2. 家族社会学史 .....	
2—1 家族研究史 .....	192
2—2 家族学説史 .....	193
3. 家 族 史 .....	
3—0 一 般 .....	194
3—1 古代・中世 .....	194
3—2 近 世 .....	195
3—3 近 代 .....	198
4. 家族の人口論 .....	
4—1 結婚・離婚 .....	199
4—2 家族計画 .....	199
4—3 世 帯 .....	200
5. 家族の形態 .....	
5—1 家族構成 .....	201
5—2 大家族 .....	202
5—3 家族類型 .....	203
5—4 家族周期 .....	204
6. 家族の内部構造 .....	
6—1 地位・役割 .....	204
6—2 人間関係一般 .....	205
6—3 夫婦関係 .....	206
6—4 親子関係 .....	209
6—5 きょうだい関係 .....	212

6—6	嫁と姑	212
7.	家族の機能	
7—0	一般	213
7—1	教育的機能	213
8.	家族の動態	
8—1	「家族主義」	216
8—2	家族の解体	218
8—3	家族の変動	218
9.	農山漁村家族	
9—1	農山村家族	219
9—2	漁村家族	221
10.	都市家族	222
11.	問題の家族	
11—0	一般	223
11—1	母子世帯	223
11—2	貧困世帯	224
11—3	問題児の家庭	226
12.	婚姻	
12—0	一般	227
12—1	婚姻史	228
12—2	婚姻習俗	229
12—3	内縁	231
12—4	通姻圏	232
12—5	Intermarriage	234
13.	離婚	234
14.	相続	
14—0	一般	236
14—1	農地相続	236

14-2	末子相続	237
14-3	その他	238
15	隠居	
15-0	一般	238
15-1	隠居習俗	238
15-2	老人問題	239
16.	分家	240
17.	外国の家族	
17-1	中国の家族	241
17-2	その他	242

## 1. 総説

- \*柳田国男, 家閑談, 鎌倉書房 (1946.11), 228.
- 小山隆 「日本近代家族」家族 (社会学大系 1, 国立書院, 1848.9), 151—194.
- 小山隆 「家族」社会学研究の栞 (戸田貞三編 中文館書店, 1949.12), 107—125.
- 小山隆 「家族」社会構成の原理 (社会科学講座 3, 弘文堂, 1950.12), 21—35.
- 小山隆 「家族社会学の現実的課題」中央大学文学部紀要, 哲学科 5 (1958.10), 1—18.
- 川島武宜 「日本の家」東洋の家と官僚 (生活社, 1948.12), 123—150.
- 有賀喜左衛門 「家について」人文科学の諸問題 (八学会連合編, 関書院, 1949.11), 85—90. のち, 社会学論集理論篇 (日高六郎編, 河出書房新社, 1959.11) に再録.
- 有賀喜左衛門 「日本の家」日本民族 (日本人類学会編, 岩波書店, 1952.6), 154—184.
- \*大元茂一郎, 家族関係新講, 地球出版 (1951, 12), 170.
- 高須裕三 「家族存在論の1考察」哲学28 (1952. 3), 101—127.
- \*清水盛光, 家族, 岩波書店 (全書) (1953.10), 322.
- 姫岡勤 「家族の概念」社会学の諸問題 (高田先生古稀祝賀論文集, 有斐閣, 1954. 3), 451—471.
- 青井和夫 「家族」社会学とは何か (今井時郎編, 誠文堂新光社, 1954. 4), 56—68.
- 武田良三 「家についての覚え書」村落研究の成果と課題 (村落社会研究会年報 1, 時潮社, 1954.10), 246—254.
- 佐藤輝美 「我が国家族の諸問題」三重法経 3 (三重短大法経学会, 1955. 1), 33—46.
- \*戸田貞三・福武直, 家族・結婚, 松尾書店 (1955. 3), 310.

- 福 武 直 「家族—教師のための社会学(3)」教育技術 12:8  
(1957.11), 88—93.
- 大 橋 薫 「近代家族の特質」大阪市立大学家政学部紀要 2:1 (社  
会福祉学特集, 1955. 3), 15—28. 同 3:1 (1956. 3),  
29—36.
- \*橋 浦 泰 雄, 日本の家族, 日本評論新社 (1955. 9), 234.
- \*北 村 達, 近代家族, 大明堂 (1955.11), 164.
- 伊 藤 規 矩 治 「現代日本家族の社会的構造について」人文学30 (同志  
社大学人文学会, 1957. 6), 1—19.
- 余 田 博 通 「家とは何か——鈴木教授の『日本農村社会学原理』に  
関する覚え書——」人文論究 8:4 (1958. 3), 68—90.
- 大 間 知 篤 三 「家族」日本民俗学大系 3 (1958. 6), 203—232.
- \*川 辺 喜 三 郎, 家族と社会, 関書院 (1959. 7), 284.
- 中 野 卓 「日本の家族—その社会学的把握」統計 10:11 (1959.  
11), 6—10.
- 戸 田 貞 三 「家族の構成と機能」家族 (社会学大系 1, 国立書院,  
1948. 9), 9—56.
- 菊 地 綾 子 「近代家族の構造と機能」家族 (家族問題と家族法 1,  
1957. 2), 231—254.
- 森 岡 清 美 「家族の構造と機能」家族・村落・都市(講座社会学 4,  
1957.11), 17—43.
- K. Ariga, T. Nakano and K. Morioka, "The Japanese Family,"  
in *Transactions of the Second World Congress of Soci-  
ology*, vol. I.
- Kizaemon Ariga, "The Family in Japan," *Marriage and Family  
Living*, 16:4 (1954.11), 362—368.
- Kizaemon Ariga, "Problems of the Asian Family System," Section  
IV—3 additional introductory paper. The Third World  
Congress of Sociology, 1—9.

Kizaemon Ariga, "The Contemporary Japanese Family in Transition" in *Transactions of the Third World Congress of Sociology*, vol. IV, 215—221.

Kizaemon Ariga, "Introduction to the Family System in Japan, China and Korea," in *Transactions of the Third World Congress of Sociology*, vol. IV, 199—207

## 2. 家族社会学史

### 2-1 家族研究史

- 小山 隆 「家族研究の回顧と展望」社会調査の理論と実際（青山書院，1948，7），74—92.
- 小山 隆 「日本家族研究文献」季刊社会学 3（1949，10），95—101. 同 4（1950，5），77—84.
- 小山 隆 「家族」村落研究の成果と課題（村落社会研究会年報 1，時潮社，1954.10），56—64.
- 執行 嵐 「夫婦生活の幸福度の予測と測定—アメリカにおける家族研究の最近段階」社会学評論 11（1953，4），61—91.
- 執行 嵐 「米国における家族解体研究の最近の動向と展望」九州大学教育学部紀要（教育学）3（1955.5），93—105.
- 執行 嵐 「家族研究の潮流」家庭裁判月報 7：10（1956.10），1—20. 同 7：11（1956，11），1—36.
- 大浦 猛 「家族の形態と教育機能—教育社会学における家族研究の推移とその成果に関する文献的研究—」家庭環境の教育に及ぼす影響（野間教育研究所紀要 10，講談社，1953，12），177—218.



2-2 家族学説史

- 山室周平 「家族発展系列理論の現段階—G. P. Murdock の新学説について」山梨大学学芸学部研究報告 2 (1951. 8), 53—60.
- 山室周平 「家族学説史の原始的吟味」社会学評論 6 (1951. 8), 146—161.
- 山室周平 「家族学説史の背景 その2——『前史的吟味』への補論——」山梨大学学芸学部研究報告 6 (1955.12), 51—56.
- 山室周平 「家族学説の成立期に関する問題点」社会学評論 30 (1958. 2), 2—21.
- 山室周平 「核家族論の発展と西欧の現代家族社会学」思想 404 (1958. 2), 93—101.
- 中川善之助 「婚姻と家族の理論—その起源に関する学説史—」家族法の諸問題 (有斐閣, 1952. 7), 1—31.
- 玉城肇 「家族史研究上における L. H. モルガンの意義」(愛知大学) 法経論集 6 (1953. 4), 1—18.
- 玉城肇 「カント家族論及び婚姻論」(愛知大学) 法経論集 9 (1954. 4), 1—23.
- 富永陽子 「フォルサムの家説論(1)」社会福祉評論 7 (1955.2), 80—100.
- 森岡清美 「R・O・ブラッドの家説論」グループマインド学内版 (東京教育大学社会学研究室, 1959. 9), 14—16.

## 3. 家 族 史

## 3—0 一 般

- \*玉 城 肇, 家族制度の歴史, 佐藤書店 (1946. ),
- \*古 島 敏 雄, 家族形態と農業の発達, 学生書房 (1947. ), 189.
- \*福 尾 猛 市 郎, 日本家族制度史, 大八州出版 (1948. 8), 230.
- \*中 村 吉 治, 家の歴史, 角川書店 (新書) (1957. 9), 196.
- 山 室 周 平 「家族の歴史的発展」家族・村落・都市 (講座社会学 4, 東大出版, 1957.11), 1—16.

## 3—1 古 代・中 世

- \*和 歌 森 太 郎, 国史における協同体の研究, 帝国書院 (1947. 8), 468.
- 戸 田 貞 三 「古代の住居址と家族の大きさ」社会科学評論 1.2 (1948. 7), 22—30.
- 有 賀 喜左衛門. 「日本古代家族」家族 (社会学大系 1, 国立書院, 1948. 9), 103—150.
- 新 見 吉 治 「家の概念と日本古代家族の研究」社会経済史学 15 : 1 (1948.10), 13—44.
- 木 村 俊 夫 「我が国上代に於ける家族道徳思想の研究—家族名称を手懸りとせる—」哲学研究 32 : 6 (1948.10), 24—49. 同 32 : 7 (1948.10), 46—62. 同 32 : 9 (1948.12), 51—64. 同 32 : 11 (1949. 3), 37—64.
- 塩 沢 君 夫 「日本に於ける古代家族の成立—正倉院文書所収戸籍残簡の分析—」 (東北大学) 経済学 16 (1949. 3), 77—109.

- 塩 沢 君 夫 「八・九世紀の古代家族および村落」経済科学 1:4 (1951.12), 1—35.
- 岡 本 堅 次 「古代籍帳の郷戸と房戸について」山形大学紀要 2 (1950.12), 187—201.
- 宮 川 満 「古代家族の変質過程」史学雑誌 60:2 (1951. 2), 42—53.
- 布 村 一 夫 「日本原始家族」社会学研究 1 (熊本女子大学社会研究部, 1953.12), 109—134.
- 松 永 修 治 「日本古代及び中世の親子関係の1考察」岐阜短大研究紀要 3 (1954. 4), 4—20.
- 下 平 慶 助 「郷戸の非現実的連合的性格」史学会報 5 (1955. ),
- 高 島 正 人 「わが律令初期に於ける戸と家との構造」立正史学 17 (1955. ), 同 18 (1955. ),
- 高 島 正 人 「わが律令初期に於ける戸と家と共同体について」立正大学文学部論叢 4 (1955 9), 81—100.
- \* 「家」制度研究会, 奈良時代の家族に関する資料, 「家」制度研究資料 17 (1955.11), 58. (謄写印刷)
- 鵜 川 馨 「中世家族についての史的研究の1動向」立教経済学研究 12:2 (1958. ),
- 伊 藤 す み 子 「奈良朝時代の婚姻についての1考察」国家学会雑誌 72:5 (1958. 5), 14—59. 同 73:1 (1959.5), 1—54.
- 泉 谷 康 夫 「現存平安時代戸籍の考察」日本史研究 39 (1958.11), 37—51.

3—2 近 世

- 桜 田 勝 徳 「漁村の家について」民族学研究 12:1 (1947. 7), 41—46.

- 竹内利美 「近世武家の分家」 社会学研究 2:1 (1948.12), 46—72.
- 姫岡勤 「我が国近世の家族における家父長的支配——主として近世文芸を通して見たる——」, 天理大学学报 1:2.3 (1949.10), 219—249.
- 姫岡勤 「わが国近世における孝の概念と家」 学会展望と東京と家 (八学会連合年報 3, 関書院, 1951.12), 149—157.
- 姫岡勤 「封建道徳に表れたわが国近世の親子関係」 社会学評論 7 (1952. 1), 121—142.
- 姫岡勤 「封建道徳に表れた夫婦の上下関係」 社会学評論 15 (1954. 2), 2—13.
- 石井良助 「一生不通養子」 国家学会雑誌 64:2.3 (1950. 3), 60—75.
- 松永修治 「江戸時代に於ける子の不養育」 岐阜短大研究紀要 2 (1952. )
- 大竹秀男 「近世末期における農民家族の1断面」 神戸法学雑誌 11:1 (1952. 7), 87—126.
- 中野卓 「商人の社会——1商家の歴史とその背景を素材として——」 日本の社会 (福武直編著, 要書房, 1952.11), 79—136.
- 高木淳子 「宗門帳における家族構造の変遷」 経済史学 7 (1953.
- 永村勇雄 「宗門改帳よりみた近世の家族」 (愛知学芸大学) 歴史研究 6 (195 .12),
- 宮川満 「近世家族の動向」 生活文化 (1953. 6),
- 宮川満 「太閤検地と家族構成」, ヒストリア 8 (1953.12), 1—17. 同 9 (1954. 8), 18—34. 同 10 (1954.11), 27—58. 同 11 (1955. 2), 23—46.
- 宮川満 「封建制確立期の隠居とヘヤ住」 大阪学芸大学紀要自然科学 2 (1954. 3), 201—212.

- 宮川 満 「近世初期の屋敷図からみた家族と社会」大阪学芸大学紀要自然科学 4 (1956. ), .
- 山岡 栄市 「宗門帳を通じて見た山村家族及び社会構造」社会学評論 13. 14 (1954. 1), 150—165.
- 上野 裕久 「日向における婚姻の禁止」法社会学 5 (1954. 4), 137—154.
- 徳田 進 「近世の町人文学に現れた家の性格」高崎論叢 1 : 1 (1954. ), 23—57.
- 半田市 太郎 「近世後期における農民の家族形態」秋大史学 4 (1954. ), 1—25.
- 宮本又次・吉田道也ほか 「天草郡御領村石本家の研究」九州文化史研究所紀要 3. 4 (1954. 10), 65—226.
- 谷口澄夫・柴田一氏 「近世における家族構成の変質過程」岡山大学教育学部研究集録 1 (1955. 1), 52—70.
- 池田 敬正 「近世前期の畿内村落と農民家族の発展——寛文期の宗門改帳と五人組帳の分析」ヒストリア 12 (1955. 5), 61—71.
- 堅田 精司 「近世前期における後進地域の家族構成」地方史研究 19 (1956. 2), 36—40.
- 有賀 喜左衛門 「鴻池家の家憲」封建制と資本制 (1956. 3), 319—336.
- 大石 慎三郎 「江戸時代における農民の家とその相続形態について」家族制度の研究 (上) (日本法社会学会編, 有斐閣, 1956. 7), 79—121.
- 北島 正元 「江戸時代の農民の『家』, 家族制度の研究 (上) (日本法社会学会編, 有斐閣, 1956. 7), 53—77.
- 佐久 高士 「近世農戸考—特に総数と家族員数と—」福井大学学芸学部紀要第三部社会科学 6 (1957. 2), 11—29.
- 関島 久雄 「或る山村の幕末百年間の人口増減と家族構成の変化」社会経済史学 22 : 4 (1957. 2), 1—25.
- 野口 サキ 「江戸初期の家族について—肥後藩人畜改帳の研究—」, 熊本女子大学学術紀要 10 : 1 (1958. 3), 1—11. 同 11 : 1 (1959. 3), 56—66.

- 喜多野清一 「江戸中期甲州山村の家族構成」家—その構造分析—  
 (有賀先生還暦記念論文集, 創文社, 1959. 6), 39—65.
- 秀村選三 「徳川期における農家の年中行事記録—筑前朱雀家と筑  
 後河北家—」家—その構造分析— (創文社, 1959. 6),  
 283—317.
- 菊地祐吾 「近世に於ける農村構造と家族形態の変遷過程」駒沢史  
 学 7 (1959.12),
- 児玉幸多 「近世農村の大家族制度」思想 302 (1949.8), 56—66.
- 及川儀右衛門 「奥州に於ける屋敷・大家族制の実態」地方史研究 38  
 (1959. 4), 41—48.

### 3—3 近 代

- 古島敏雄 「明治時代に於ける農民の家族形態と農業の発達」季刊  
 大学 2 (1947. 7), 2—13.
- 福島正夫 「明治初年の土地所有と家族制度」(法政大学) 法学志  
 林 48 : 3 (1950.12), 2—29.
- 河村雷雨 「わが国家長制家族の集团的統一性—主として明治大正  
 文芸を通じて見たる—」, ソシオロジ 11 (1955.11), 36  
 —47.
- \*玉城肇, 近代日本における家族構造—資本制生産の発達と「家」  
 一, 酒井書店 (1956. 7), 336.
- 小沢三郎 「近代日本におけるキリスト者の結婚—植村正久を中心  
 として—」, 福音と世界 14 : 4 (1959. 4), 50—53.
- 山本登 「戸籍を通じてみた家族の研究—山梨県中巨摩郡田富村  
 今福の場合—」戸籍制度と「家」制度 (東大出版, 1959.  
 6), 399—444.

4. 家族の人口論

4-1 結婚・離婚

- 横堀 栄 「日本農村の血族結婚の濃厚さ」民族衛生 16 : 3 (1949. 9), 73—75.
- 佐藤 寧子 「夫婦の結婚年令差について」人口問題研究 9 : 12 (1953.11), 35—43.
- 石村 善助 「婚姻年齢についての一考察」(東京都立大学)人文学報 11 (1954. 2), 74—85.
- 岡崎 文規 「夫婦関係持続期間と出産力」人口問題研究 5 : 2 (1956. 2), 1—14.
- 岡崎 文規 「離婚に関する統計的観察」人口問題研究所年報 1 : 1 (1956), 18—32.
- \*小林 和正, 農家世帯員の就職及び結婚の機縁に関する調査資料—山梨県中巨摩郡玉穂村における昭和30年度総合調査結果の部分報告一, 厚生省人口問題研究所研究資料 116(1956. 3), 35. (謄写印刷)
- 黒田 俊夫 「結婚パターンの変動とその出生力に及ぼす影響の人口学的分析—出生力決定要因研究プログラムの一環として—」人口問題研究 71 (1958. 3), 1—23.
- 黒田 俊夫 「人口変動要因としての結婚の動向に関する1研究」人口問題研究所年報 3 (1958. 8), 16—20.
- 黒田 俊夫 「結婚変動の静態的・動態的観察—日本に於ける結婚の人口学的分析」人口問題研究 73 (1958. 9), 1—38.
- 館 稔・上田正夫・浜 英彦 「青年期人口の地域的分析(6)」人口問題研究 74 (1958.12), 63—84.

4-2 家族計画

- 本多 竜雄 「産児制限問題を主題とする若干の人口理論的省察」人口問題研究 5 : 7. 8. 9 (1947. 9), 1—24.

- 本多竜雄 「毎日新聞社の産児調節に関する第4回世論調査の結果について」人口問題研究 70 (1957.12), 21—54.
- 佐藤寧子 「人工妊娠中絶と出生序列の変化」人口問題研究 73 (1958. 9), 39—43.
- 篠崎信男 「人工妊娠中絶と不妊手術の実態的研究—和歌山県下における面接調査結果の統計的分析」人口問題研究 74 (1958. 12), 37—62.

## 4—3 世帯

- 本多竜雄 「1水田単作村の人口誌的観察—新潟県西蒲原郡黒崎村農村人口収容力調査報告」人口問題研究 7 : 1 (1951.5), 1—15.
- 本多竜雄 「近代的労働者階級のデモグラフィ的観察—大工場工員とその世帯についての調査結果の概要」人口問題研究 66 (1956.12), 1—27.
- 山下政信 「我が国農家における経営規模と人口及び労働力に関する統計的研究」農村人口問題研究 1 (1951. 8), 261—293.
- 山下政信 「我が国農家における世帯人員と消費構造に関する統計的研究」農村人口問題研究 2 (1952.11), 413—457.
- 福武直 「日本における家族制度と農村人口」農村人口問題研究 2 (1952.11), 103—150.
- 宮川実 「東京都下の小・零細企業従事者に関する調査結果の概要(2)」人口問題研究 68 (1957. 6), 32—41.
- 林茂 「機械化農村における人口収容の形態—岡山県児島郡興除村実態調査報告」人口問題研究 69 (1957.10), 33—58.
- 柿崎京一 「農家人口の性格」農村の人口 (野尻重雄編著, 中央経済社, 1959. 4), 119—151.
- 皆川勇一 「東北のある山村における明治初年の人口状態について」村落社会研究会研究通信 31 (1959. 4), 5—9.



- 皆川 勇一 「東北における一山村の人口誌的考察(その2) —明治10年の戸籍を通してみた封建末期から近代初期の安楽城村の人口状態—」人口問題研究所年報 4 (1959.10), 45—51.
- 小林 和正 「人口研究と世帯統計」統計 10:11 (1959.11), 1—5.
- 統計編集部 「世帯と統計調査」統計 10:11 (1959.11), 17—19.

## 5. 家族の形態

### 5—1 家族構成

- 中村 治兵衛 「近畿1米作農村の家族構成—滋賀県愛知郡稲村大字薩摩部落調査—」農業総合研究 2:1 (1948. 1), 176—200.
- 池田 志恵 「地方小都市における家族関係の調査研究—その1 家族の構成—」宇都宮大学学芸学部研究論集 4号1部 (1950.3), 81—99.
- 木下 彰 「農民家族論—その形態・構成の変化を中心として—」(東北大学) 経済学 19 (1951. 2), 41—117.
- 小山 隆 「家族構成の面から見た封建遺制」封建遺制 (日本人文科学会編, 有斐閣, 1951.11), 167—174.
- 小山 隆 「石崎の家族構造」能登—自然・文化・社会 (九学会連合編, 平凡社, 1955.12), 324—329.
- 小山 隆 「家族の構造」新しい家族 (現代家族講座 1, 河出書房, 1956. 5), 7—34.
- 小山 隆 「日本の都市における家族構成の特質」都市問題 47:6 (1956. 6), 1—9.
- 山本文夫 「佐世保市家族構成調査」佐世保商科短大研究紀要 1 (1953. ), 53—64.
- 山本文夫 「世帯に於ける非家族人員特に他の成員との間の相関関係について」佐世保商科短大研究紀要 2 (1954. ), 50—62.

- 山本文夫 「佐世保市世帯構成調査」社会学評論 19 (1955.3), 58—86.
- 片野健吉 「1950年の国勢調査による我が国の世帯平均人員について—社会の都市化に伴う人間関係の変動過程に関する研究(1)—」秋田大学学芸学部研究紀要 4(1954. 3), 265—306.
- 片野健吉 「秋田県の産業別世帯人員について—社会の都市化に伴う人間関係の変動過程に関する研究(2)—」秋田大学学芸学部研究紀要 5 (1955. 3), 197—238.
- 片野健吉 「秋田県の市町村別世帯人員の変動—社会の都市化に伴う人間関係の変動過程に関する研究(3)—」秋田大学学芸学部研究紀要 6 (1956. 2), 223—242.
- 大橋 薫 「大都市家族の研究—家族構成を中心として—」ソシオロジ 7 (1954. 9), 1—19.
- 大橋 薫 「都市徹染街における家族構成の特質—大阪「ミナミ」盛り場を中心として—」ソシオロジ 13 (1956.5), 45—62.
- 真田 是 「都市下層社会の家族構成—大阪市日東地区の調査から—」社会問題研究 5 : 4 (1955.12),
- 岡村 益 「家族縮少の1形態—身売りについて—」家政学雑誌 8 : 4 (1957. ),
- 中野 卓 「家族と世帯」日本社会要論 (松島静雄と共著, 東大出版, 1958. 5), 第一章. のち社会学論集理論篇 (日高六郎編, 河出書房新社, 1959.11) に再録.

## 5—2 大 家 族

- 福島正夫 「山村の『家』と資本主義—飛騨白川村の分家事件を通じて—」東大東洋文化研究所紀要 6 (1954.11), 1—97.
- 松野達雄 「飛州白川村大家族制度に関する若干の問題について, その1」岐阜大学学芸学部研究報告人文科学 3 (1955. 2), 69—80.

- 玉 城 肇 「岐阜県白川村の家族集団についての調査 (1) —平瀬分家について—」 愛知大学法経論集 13. 14 (1955. 6), 247—266.
- 玉 城 肇 「岐阜県白川村の家族集団についての調査 (3)」 愛知大学法経論集 16 (1956. ), .
- 玉 城 肇 「大家族形成の経済的基礎」 愛知大学法経論集 17. 18. 19 (十周年記念論文集経済編, 1956. 11), 287—325.
- \* 玉 城 肇, 日本における大家族制の研究, 刀江書院 (1959. 7), 376.
- 黒 木 三 郎 「岐阜県白川村の家族集団についての調査 (2)」 愛知大学法経論集 15 (1955. 12), 133—159.
- \* 猪 飼 久, 飛騨白川村の大家族制度—その家族形態と解体過程—, 土地制度史料保存会研究資料 4 (1956. ), 72.
- 有 賀 喜左衛門 「大家族の崩壊以後」 信濃 10 : 5 (1958. 5), 1—12.
- 米 沢 康 「大家族制の経済的基礎について」 越中史談 16 (1959. 3), 13—19.
- 5—3 家 族 類 型
- 牧 野 巽 「家族の類型」 家族 (社会学大系 1, 国立書院, 1948. 9), 57—102.
- 最 上 孝 敬 「大家族と小家族」 民俗学の話 (共同出版社, 1949. 10), 57—68.
- 大 間 知 篤 三 「家の類型」 民間伝承 14 : 12 (1951. 1), 4—9.
- Toshio Fueto, “Two Types of Japanese Family Systems” 山口経済学雑誌 5 : 11. 12 (1955. 3), 102—110.
- 鈴 木 広 「家族類型論の考察」 社会学研究 13 (1957. 6), 66—69.
- 布 施 鉄 治 「現代日本都市家族における二つの『類型』と都市の近代化—日本都市家族の社会学的研究序説—」 社会学評論 31 (1958. 5), 28—51.
- 小 山 隆 「家族形態の類別」 社会学の問題と方法 (新明博士還暦記念論文集, 有斐閣, 1959. 6), 211—228.

## 5—4 家族周期

- 森岡清美 「家族研究の1視角—家族周期の理論と方法」家庭裁判月報 5:2 (1953. 2), 39—80.
- 杉山茂 「開拓地における家族構成の変化と農業生産」農業総合研究 8:1 (1954. 1), 253—262.
- \*小林和正, 農村の相続世帯に於ける家族の世代構成に関する統計的考察, 厚生省人口問題研究所研究資料 113(1956.2), 44. (謄写印刷)
- 小林和正 「農村相続世帯に於ける家族サイクルの諸段階」人口問題研究 64 (1956. 5), 15—37.
- 小林和正 「ファミリー・サイクルよりみた農村相続世帯」人口問題研究所紀要年報 1:1 (1956), 45—50.
- 執行嵐 「家族研究に関する若干の提案」九州大学教育学部紀要 4 (1956. 3), 59—69.
- 小山隆 「家族形態の周期的変化」家—その構造分析—(創文社, 1959. 6), 67—83.
- 野久尾徳美 「家族周期の研究について」日本福祉大学研究紀要 2 (1959. ),
- 江口英一 「家族構成と生活水準」現代日本の貧困 (講座社会保障 I, 至誠堂, 1959.12), 49—85.

## 6. 家族の内部構造

## 6—1 地位・役割

- \*川島武宜, 日本社会の家族的構成, 学生書房 (1948. ), 207. のち, 社会学論集理論篇 (日高六郎編, 河出書房新社, 1959.11), に一部再録.

- 森 岡 清 美 「家族研究に於ける個人的記録の使用—特に「日記」の資料的価値について—」家庭裁判月報 6 : 5 (1954. 5), 19—51.
- 上 子 武 次 「家族活動における役割」人文研究 (大阪市立大学文学会) 6 : 10 (1955.10), 61—77.
- 上 子 武 次 「家族の構造」人文研究 7 : 10 (1956.11), 50—64.
- 上 子 武 次 「家族成員の座」人文研究 9 : 10 (1958.11), 39—58.
- 上 子 武 次 「主婦の就職」人文研究 10 : 12 (1959.12), 60—89.
- 瀬 川 清 子 「主婦権について」民俗学新講 (明世堂, 1947.10), 193—216.
- 箱 山 貴 太 郎 「主婦権の移譲をめぐって」信濃 7 : 11 (1955. ),  
— .
- 小 山 隆 「戸主権と主婦権」家 (郷土研究講座 3, 角川書店, 1958. 1), 145—162.
- \* 小 山 隆 (編), 日本における女性の社会的地位の変化, ユネスコ報告 (1959.12), 101. (謄写印刷)
- 竹 内 利 美 「奉公人・雇い人・徒弟」日本民俗学大系 4 (平凡社, 1959. 8), 63—99.

## 6—2 人間関係一般

- 土 井 正 徳 「家族軌轍の科学的分析」家庭裁判月報 4 : 1 (1952.1), 1—65. 同 4 : 2 (1952. 2), 1—62. 同 4 : 3 (1952.3), 1—52. 同 4 : 4 (1952. 4), 1—62. 同 4 : 5 (1952.5), 1—71.
- \* 津 留 宏, 家族の心理, 金子書房 (1953. 6), 253.
- 辻 正 三 「家庭における人間関係考究の一つの試み」(東京都立大学) 人文学報 10 (1953. 9), 53—64.
- 橋 田 義 雄 「家庭構造の心理学的分析」福岡学芸大学久留米分校研究紀要 5 (1954.12), 1—10.

- \*牛島 義友, 家族関係の心理, 金子書房 (1955. 3), 390.
- 溝上 泰子 「家族の情緒的構造—農村の家族研究の序曲として—」  
島根大学論集 (教育学関係) 6 (1956. 2), 83—97.
- 松村 康平 「家族関係の心理学的研究」お茶の水女子大学人文科学  
紀要 8 (1956. 3), 149—226.
- 松村 康平 「人間関係の診断—役割技法による研究—」心理学評論  
1:1 (1957.10), 1—9.
- 山根 常男 「家族における人間関係研究の課題」日本社会学の課題  
(林恵海教授還暦記念論文集, 有斐閣, 1956.3), 49—65.
- 執行 嵐 「家族の人間関係」新しい家族 (現代家族講座 1, 河出  
書房, 1956. 5), 57—92.
- 永井道雄ほか 「婚姻家族の構造的分析」京都大学教育学部教育紀要 2  
(1956. ),
- 丸井 文男 「家族関係の1 診断法の試み—TATによる感情関係の  
把握—」名古屋大学教育学部紀要 3 (1957. 3), 340—  
345.
- 石黒 大義 「家族関係の心理学的研究」中部社会事業 4 (1956.11),  
2—29. 同 5 (1957. 3), 14—26.
- \*依田 新(編), 家族の心理, 培風館 (1958. 2), 260.
- 大西 誠一郎 「家族関係の研究における問題点」名古屋大学教育学部  
紀要 4 (1958. 3), 85—89.
- 田村 喜代 「本学学生の意識に現れた家族関係—自由記述形式調査  
による1 側面—」東京学芸大学研究報告 10 (1959. ),  
49—64.

### 6—3 夫婦関係

#### 6—3—1

- 桑畑 勇吾 「家族結合の測定について (1) —社会的要因分析の方法  
を中心とする—」ソシオロジ 3 (1953. 2), 11—24.

- 藤 縄 昌 子 「結婚生活に於ける幸福度の測定」鳥取大学学芸学部研究報告(人文科学) 4 (1953.12), 47—58.
- 牛島義友ほか 「結婚生活の幸福度」教育と医学 2:5 (1954. 5), 41—46.
- 四 方 寿 雄 「結婚円満度の予測」結婚への道(現代家族講座 2, 河出書房, 1956. 2), 97—145.

6—3—2

- 今 崎 秀 一 「夫婦結合関係(異性愛と友愛)」福岡商大論叢 4:2 (1953.10), 169—191.
- 今 崎 秀 一 「夫婦関係—性と社会—」福岡商大論叢 4:3 (1953.12), 343—373.
- 山 根 常 男 「家族の社会的機能と夫婦関係に関する1考察」社会学評論 15 (1954. 2), 81—85.
- 山 根 常 男 「夫婦関係」結婚の幸福(現代家族講座 3, 河出書房, 1956. 1), 7—32.
- \*牛島義友・藤縄昌子・末広和子, 結婚生活の心理—家族関係の研究—, 牧書店 (1954.10), 231.
- 藤 縄 昌 子 「結婚生活の幸福に影響する諸要素」鳥取大学学芸学部研究報告(人文科学) 6 (1955.12), 121—137.
- マックナイト, W. Q. 「調和のある結婚生活の要素」(関西学院大学) 人文論究 6:1 (1955. 5), 54—58.
- 菊 池 綾 子 「幸福な結婚」結婚の幸福(現代家族講座 3, 河出書房, 1956. 1), 69—105.
- 山 室 周 平 「経済と結婚生活」結婚の幸福(現代家族講座 3, 河出書房, 1956. 1), 157—191.
- 田 村 健 二 「病気と結婚生活」結婚の幸福(現代家族講座 3, 河出書房, 1956. 1), 107—128.

- 日 上 泰 輔 「結婚生活の心理」結婚の幸福（現代家族講座 3, 河出書房, 1956. 1), 193—229.
- 増 田 光 吉 「鉄筋アパート住居家族の夫婦関係」甲南大学文学部論集 7 (1958. 3), 1—21.
- Tsuyako Shimada, "A Comparison of American and Japanese Attitudes towards Marriage Roles," *Kansai Gakuin University Annual Studies*, vol. 7 (March, 1959), 249—270.
- \*我 妻 洋, 愛の認識について: 結婚の幸福, 光文社 (カップ・ブックス) (1959. 6), 206.
- 中 川 孝 史 「結婚(晩婚)と家計その他の問題」大阪女子学園短大紀要 3 (1959. 6), 65—79.

## 6—3—3

- 牧 野 異 「結婚の病理」結婚の病理と処方（現代家族講座 4, 河出書房, 1955.11), 9—31.
- 村 田 宏 雄 「結婚の危機」結婚の病理と処方（現代家族講座 4, 河出書房, 1955.11), 33—75.
- 中 西 信 男 「ファミリー・カウンセリング」結婚の病理と処方（現代家族講座 4, 河出書房, 1955.11), 121—156.
- 畑 下 一 男 「危機の心理的療法」結婚の病理と処方（現代家族講座 4, 河出書房, 1955.11), 77—120.
- 青 井 和 夫 「危機の社会的療法」結婚の病理と処方（現代家族講座 4, 河出書房, 1955.11), 157—221.
- 近藤貞次・太田雅夫・林 英夫 「夫婦間の問題についての調査」名古屋大学教育学部紀要 3 (1957. 3), 128—133. 同 4 (1958. 3), 108—112.
- \*日 上 泰 輔, 三角関係の心理学的研究 (家庭裁判所調査官実務研究報告書昭和30年度 1), 最高裁判所事務総局 (1957. 4)153.
- 島 田 津 矢 子 「結婚カウンセリングの科学的研究—特に家族福祉ケースワークの1環として—」創立七十周年関西学院大学文学部記念論文集 (1959.10), 766—792.



6—3—4

- 山本時雄 「両親の不和と子供」教育心理 3:7 (1955.7), 39—43.  
 中村陽吉 「家庭生活における父母の活動領域」(東京都立大学)  
 人文学報 14 (1956. 2), 66—43.

6—4 親子関係

6—4—1

- 桂 広介 「青年と両親」児童心理 3:3 (1949. 3), 55—56.  
 島本彦次郎 「家族内における親子間の争いの原因調査」教育社会学  
 研究 3 (1952.11), 102—116.  
 石黒大義 「映画“日本の悲劇”に現われた親子関係に対する反応  
 の研究」児童心理 7:9 (1953. 9), 71—82.  
 西平直喜 「続、青年—両親関係の心理学的研究」家庭環境の教育  
 に及ぼす影響(野間教育研究所紀要 10, 講談社, 1953,  
 12), 55—100.  
 松永修治 「日本における親子関係断絶の1研究」岐阜女子短期大  
 学紀要 4 (1954. ),  
 中西昇ほか 「親子関係の心理学的研究」大阪市立大学家政学部紀要  
 児童学 1 (1954. 3), 1—41. 同 2 (1955. 3), 1—33.  
 同 3 (1956. 3), 1—11. 同 4 (1957. 3), 1—12.  
 \*都留 宏ほか, 親子関係, 福村書店 (1954.10), 296.  
 児玉 省・鹿股寿美江 「親と子の関係の心理」家政学雑誌 4:2. 3 (19  
 54. ), 220—224.  
 大浜 英子 「親子げんか」思想の科学 1:3 (1954. ) 27—29.  
 塩田芳久・村上要治・大橋正夫 「親の期待と子供の願望(1)」名古屋大  
 学教育学部紀要 1 (1955. 3), 87—100.  
 塩田芳久ほか 「親子の期待・願望と子供のパースナリティ(2)及び  
 (3)」名古屋大学教育学部紀要 2 (1956. 3), 56—68.  
 同 3 (1957. 3), 142—158.

- 金 久 卓 也 「親子関係の心理」教育と医学 3 : 4. 5 (1955. 4), 15—21.
- 内 藤 莞 爾 「親子関係について—その日本的意味—」教育と医学 3 : 4 (1955. 4), 22—27.
- 磯 村 英 一 「親と子の人間関係」家族の扶養 (現代家族講座 6, 河出書房, 1956. 8), 9—53.
- 増 田 光 吉 「都市家族の親子関係—サラリーマン家族と商人家族の比較調査—」甲南女子短期大学論叢 1 (1956. ),
- \*京都市教育研究所(編), 中学生の親子関係と性格, 京都市教育研究所 (1957. 3),
- 遠 山 順 一 「権威主義的パースナリティと親子関係」京都大学教育学部紀要 3 (1957. 3),
- 依田 新・久世敏雄・大西誠一郎 「青年—両親関係—心理的離乳」名古屋大学教育学部紀要 3(1957. 3), 100—127. 同 4 (1958. 3), 90—100. 同5 (1959. 3), 192—199.
- 村 上 英 治 「ロールシャッハ・テストにおける人間関係の研究 (1) —「父親カード」と「母親カード」の分析—」名古屋大学教養学部紀要 2 (1957.12), 1—10.
- 赤 木 愛 知 「家庭の封建遺制 (1) —家族主義に関する親と子の関係」名古屋大学教育学部紀要 4 (1958. 3), 123—130.
- 大西誠一郎・久世敏雄 「親子関係—とくに情緒的關係を中心として」名古屋大学教育学部紀要 5 (1959. 3), 182—191.
- 続 有 恒・増田末雄 「家庭の社会的地位と親子関係および子どもの交友関係 (1)」名古屋大学教育学部紀要 5 (1959. 3), 213—218.
- 田村健二・田村満喜枝・宮脇源次 「富里村における親子関係テスト—Parents Situation Test を中心に—」精神衛生研究 7 (1959. 3), 62—89.

6—4—2

- 久世敏雄・大西誠一郎 「中学生と母親との関係」青年心理 5:2 (1954. 6), 103—111.
- 須山省三・望月 衛 「母と高校生のずれ」思想の科学 1:8 (1954. ), 28—33.
- 石 黒 大 義 『母—子関係』の心理学的研究 (1) —乳幼児期のしつけの実態」名古屋大学教育学部紀要 1 (1955. 3), 74—86.
- 依 田 新ほか 「家族関係の型と幼児の社会的行動—母子関係の心理学的研究 (3)」中部社会事業 4 (1956.11), 30—45.
- 水 本 正 夫 「母親が幼児のパーソナリティに及ぼす影響」天理大学学報 25 (1958. 3), 100—108. 同 27 (1958.11), 69—80.
- 山崎道子・今田芳枝 「継母子関係の研究」精神衛生研究 7 (1959. 3), 155—198.

6—4—3

- 辻 正 三 「児童を通じてみた家庭の力動的構造に関する研究—特に父・母・子の関係について」児童心理と精神衛生 3:1 (1952. 9), 12—21.
- 辻 正 三 「家庭における児童—成人関係」児童心理 7:9 (1953. 9), 30—36.
- 中 野 清 一 「家族集団の現代的動向と児童」学校教育 424 (1953. 3), 16—21.
- 都 留 宏 「子供をめぐる祖父母と両親」教育心理 3:7 (1955.7), 36—38.
- \*松 村 康 平, 児童理解の方法, 誠信書房 (1958. 7), 426.
- 吉 田 禎 吾 「大家族の中の子供たち」教育と医学 6:10 (1958. ),

近藤貞次・太田雅夫・林 英夫「僻地の中学生の対家族関係」名古屋大学  
教育学部紀要 5 (1959. 3), 208—212.

#### 6—5 きょうだい関係

辻 正 三 「兄弟関係, 1人子, 養子, その他」幼児, 児童教育講座 (1954. ),

杉溪一言・石井哲夫 「幼児期におけるきょうだい関係の実験的研究」心理  
学研究 26:4 (1955. ),

本 出 祐 之 「1人子と家庭環境—成人1人子の事例—」大阪市立大  
学家政学部紀要 2:1 (社会福祉学 2, 1955. 3), 74—  
84.

塩田芳久・大橋正夫 「同胞関係の心理学的研究」名古屋大学教育学部紀  
要 4 (1958. 3), 101—107. 同 5 (1959. 3), 200—207.

#### 6—6 嫁 と 姑

田 島 一 郎 「嫁と姑の座—いつまで続く農村の封建性—」社会事業  
37:7 (1954. 8), 64—68.

森 岡 清 美 「嫁と姑の生態」, 結婚の幸福 (現代家族講座 3, 河出  
書房, 1956 1), 33—68.

山 代 巴 「嫁と姑」過去につながる習俗と倫理 (講座現代倫理 6,  
筑摩書房, 1958. 6), 197—203.

\* 宇佐川満 (編著), 嫁と姑, 医歯薬出版KK (1959. 1), 176.

\* 我 妻 東 策, 嫁の天国—志摩の隠居農場制—, 未来社 (1959. 5),  
294.

7. 家族の機能

7-0 一般

- 村越清 「家族理念とその安定機能の1考察」千葉大学文理学部  
紀要(文化科学) 1:1 (1953. ), 34—35.
- 山室周平・服部治則 「農村の家族はいかなる機能をいかに果しているか  
—東信地方に於ける若干の事例—」社会学評論 21 (19  
55. 7), 68—96.
- 有賀喜左衛門 「家制度と社会福祉」社会事業 38:9 (1955.10), 1—8.
- 内藤莞爾 「家族の機能」新しい家族(現代家族講座 1, 河出書房,  
1956 5), 35—55.
- 山根常男 「都市生活における家族の機能」都市問題 47:6 (1956.  
6), 10—19.
- 北村達 「我が国における現代家族の機能の特性」北海道学芸大  
学紀要(第1部) 8:1 (1957. 8), 125—136.

7-1 教育的機能

- 岡田謙 「家庭と学校」社会と学校 3:3 (1949. 3), 1—6.
- 小山隆 「農村における教育と家庭」社会と学校 3:3 (1949.3),  
7—12.
- 大浦猛 「家族と教育」教育学研究 18:1 (1950.2), .
- 周郷博 「家庭教育における権威」児童心理 6:3 (1952.3), 201  
—205.
- 定形善次郎 「家族集団の教育構造—農村に於ける家族集団の教育的  
環境の調査—」茨城大学教育学部紀要 1 (1952. 3), 41  
—67.

- 片山 豊 「家族集団と教育」教育社会学通論 ( , 1952.6),
- \*松浦 伯夫 家族集団の人間形成, 鶴書房 (1952. 7), 115.
- 清水 義弘 「危機における家庭教育」講座教育社会学 2 (1953.12), 121—143.
- 奈賀 シズ 「幼児の性格形成上よりみたる家族集団及び学級集団」徳島市教育研究所紀要 5 (1953. 3),
- 水原泰介・井田薫子 「家庭での育て方と幼児のパーソナリティ」児童心理と精神衛生 3 : 5 (1953. 8), 23—36.
- 水原泰介ほか 「家庭内での子供の扱い方とクラス内での人気」児童心理と精神衛生 5 : 4 (1955. ), 1—8.
- 正木 正 「家庭と人間形成」児童心理 7 : 9 (1953. 9), 10—15.
- 稲田 準子 「児童の性格と親子関係」児童心理 7 : 9 (1953. 9), 25—29.
- 小川 太郎 「近代社会における親子関係と教育」児童心理 7 : 9 (1953. 9), 1—9.
- 戸川 行男 「貧困家庭と性格形成」児童心理 7 : 10 (1953.10), 18—23.
- 長島 貞夫 「躾の型及び親の態度と性格形成—性格と乳幼児期の躾—」家庭環境の教育に及ぼす影響 (野間教育研究所紀要 10, 講談社, 1953.12), 3—26.
- 辰野 千寿 「賞罰とパーソナリティの形成—親の賞罰と子供のパーソナリティ—」家庭環境の教育に及ぼす影響 (同上), 27—54.
- 成田 克矢 「学業遅速の家庭的背景」家庭環境の教育に及ぼす影響 (野間教育研究所紀要, 講談社, 1953.12), 101—129.
- 浜田 陽太郎 「家庭環境の教育に及ぼす影響—その社会学的研究—」家庭環境の教育に及ぼす影響 (同上), 131—176.

- 吉 田 昇 「自伝による家庭教育の研究」家庭環境の教育に及ぼす影響 (同上), 243—282.
- 土 屋 忠 雄 「明治以後における学校と家庭との相即関係」家庭環境の教育に及ぼす影響 (同上), 283—322.
- 矢吹愛子・藤尾初穂 「家庭での育て方と幼児の性格」児童心理と精神衛生 4:3 (1954. 6), 11—22.
- 津 守 真 「社会階級と子供の扱い方及びその影響との関係」児童心理と精神衛生 4:4 (1954. 8), 60—80.
- 田 中 勝 規 「農村に於ける伝統的家庭教育の性格」福岡学芸大学久留米分校研究紀要 3 (1954. ), 1—12. 同 5 (1954. 12), 59—70.
- 藤 原 良 毅 「家族集団の教育機能の分析について」教育社会学研究 6 (1954.10), 98—109.
- 藤 原 良 毅 「家族集団の教育機能」秋田大学教育研究所所報 2 (1955. 3), 1—42.
- 石黒大義・旭 好子 「乳幼児期の育て方と人格形成」児童心理と精神衛生 4:5 (1954.11), 6—14.
- 石 黒 大 義 「貧困家庭とパーソナリティの形成」青年心理 5:4 (1954.12), 60—66.
- 大 橋 富 貴 子 「家庭教育と家族道徳」道徳における人間形成 (現代道徳講座 6, 河出書房, 1955. 1), 46—63.
- 柴 田 良 稔 「教育の場としての家庭」大谷大学 哲学論集 1 (1955. 4),
- 関 和 夫 「親のしつけの型」教育と医学 3:4 (1955. 4), 32—38.
- 小 島 育 子 「被生活保護世帯における人間形成」北海道教育研究所紀要 13 別冊 (1955. 9), 16—31.
- 常 見 育 男 「家庭教育の発達段階と時代区分」関東短大紀要 3 (1956. 2),
- 中 野 繁 喜 「家庭環境と道徳性について」九州大学教育学部紀要 4 (1956. 3) 27—40.

- 松浦孝作 「家庭生活と子供の教育」 家族の扶養（現代家族講座6，河出書房，1956. 8），55—81.
- 大西誠一郎ほか 「家庭関係と人格形成—家庭関係と幼児の人格—」 名古屋大学教育学部紀要 3（1957. 3），134—141.
- 辻正三 「親子関係と子どもの人格形成」 児童発達（依田新編，国土社，1957. 5），75—111.
- 石川英夫 「子どもの性格形成と家族関係（1）」 東京経学会誌 19（1958. 2），202—134.
- 星野命・祖父江孝男・須沢ひろ子・今井義量 「育児様式とパーソナリティ（その1）」 ICU教育研究 5（1958.12），148—216.
- 藤縄昌子 「育児条件の子供へ及ぼす影響」 鳥取大学学芸学部研究報告，教育科学 1（1959.12），143—150.

## 8. 家族の動態

### 8—1 「家族主義」

- 福武直 「我国農村に於ける家族主義—その実態と超克の条件—」 季刊大学 2（1947. 7），22—27.
- 福武直 「東北農村の家族主義—秋田県大館付近の農村調査から—」 中央公論 62：11（1947. ），
- 福武直 「家族に於ける封建遺制」 封建遺制（日本人文科学会編，有斐閣，1951.11），147—166.
- 山室周平 「アジア社会近代化のための家族調査—Irma High-baugh, *Family Life in West China* を中心として—」 明治学院論叢 18（1950. 2），29—44.
- 山室周平 「家族に於ける封建遺制検出のための諸前提—『封建遺制』に於ける福武直氏の報告に寄せて—」 社会学評論 9（1952.10），52—62.



- 大内 力 「農村家族主義の経済的基礎」社会学評論 1 (1950.7), 11—19.
- 勝部 真長 「民主社会と家庭—家族主義の克服—」児童心理 5 : 3 (1951. 3), 1—9.
- 大原 通子 ほか 「封建制についての調査」家族社会学研究 1 (熊本女子大学社会研究部, 1953.12), 3—96.
- 大橋 薫 「家族主義について—家族社会学の諸問題 (1)—」大阪市立大学家政学部紀要 1 : 1 (社会福祉学 1, 1953.12), 12—22.
- 太田 卓 「家族主義と青年」青年心理 5 : 3 (1954.9), 102—106.
- 不破 勝敏 夫 「新民法に対する世論—山口県における家族制度の調査 (4)—」山口経済学雑誌 5 : 5.6 (1954.10), 50—60.
- 中野 芳彦 「二十村郷における家族主義道徳の実態」新潟大学教育学部長岡分校研究紀要 1 (1954.12), 52—75.
- 中野 芳彦 「山村における家族主義道徳」現代道徳講座 4 (1955. 2), 61—101.
- 葛谷 隆 正 「結婚及びそれに関連した諸問題に対する青年層・成人層の態度について」熊本大学教育学部紀要 4 (1956.3), 44—66.
- 高橋 進 一 「いわゆる『農村封建制』をめぐる諸問題—社会学的概念の検討と実態把握の方法を中心として—その 1」名古屋大学文学部研究論集 15 (1956. 3), 51—72.
- 川越 淳 二 「家族における伝統的規範とその崩壊」文学論叢 (愛知大学文学会, 1957. 3), 95—122.
- 川越 淳 二 「農民の価値観」戦後農村の変貌 (村落社会研究会年報 5, 時潮社, 1958.10), 170—187.
- 塚本 哲人 「家族のイデオロギー」家族・村落・都市 (講座社会学 4, 東大出版, 1957.11), 71—84.
- \* Baber, R. E., *Youth Looks at Marriage and the Family : A Study of Changing Japanese Attitudes*, International Christian University, Aug. 1958, Pp. 154.

- 小山 隆 「東京近郊村の家族」戦後農村の変貌（村落社会研究会年報 5, 時潮社, 1958.10), 1—23.
- 小山 隆 「あるべき家族とある家族」書齋の窓 68 (1959. 6), 10—12.
- 桜井 丸 雄 「親族扶養に於ける『家』の意識」熊本大学教育学部紀要 7 (1959. 2), 116—124.
- 我妻 洋 「戦後日本における結婚観の変化についての1 考案」甲南大学文学会論集 9 (1959. 3), 1—27.
- 中野 卓 「『家』のイデオロギー」階級社会と社会変動（現代社会心理学 8, 中山書店, 1959. 6), 100—118.

### 8—2 家族の解体

- 雀部 猛 利 「Family Disorganization について」ソシオロジ 6 (1954. 6), 39—45.
- 大橋 薫 「Family Disorganization の測定について—その 1, 方法論的枠組の設定—」社会福祉論集 1 (1954. 7), 53—75.
- 桑畑 勇 吉 「都市における家族の崩壊」都市問題 46 : 2 (1955.2), 9—17.
- 桑畑 勇 吉 「家族結合の測定について(II)—Family Disorganization の論理—」ソシオロジ 11 (1955.11), 16—35.
- 田村 健 二 「家族的緊張」現代社会学（牧野巽編, 誠信書房, 1957. 4), 149—174.
- 戸川 行 男 「家族崩壊」階級社会と社会変動（現代社会心理学 8, 中山書店, 1959. 6), 119—134.

### 8—3 家族の変動

- 北村 達 「我が国における家族関係結合紐帯の変化」北海道学芸  
大学紀要 3:2 (1952.10), 105—110.
- 北村 達 「我が国家長制家族組織の原理と戦後における変化」北  
海道学芸大学紀要 9:1 (1958. 9), 83—94.
- 村田 宏雄 「戦争と家族」家庭裁判月報 6:12 (1954.12), 1—14.  
Kenneth K. Morioka, “The Changing Social and Family System  
in Japan,” *The Student World*, No. 4, 1955. 388—393.
- 佐々木 譲 「家族の変遷」大谷大学哲学論集 3 (1957. ),  
家族研究部会 (小山隆・姫岡勤・山根常男・桑畑勇吉) 「戦後における家族  
の実態」社会学評論 27. 28 (1957. 7), 114—145.
- 虫 明 凱 「家族変動論—その倫理的意味について」岡山大学教育  
学部研究集録 6 (1958. 3), 82—98.

## 9. 農山漁村家族

### 9—1 農山村家族

- 木下 彰 「農地改革と農村家族制度」経済学研究 5 (1949. ),  
98—112.
- \* 労働省婦人少年局, 中央婦人問題会議農村委員会, 婦人関係資料シリーズ  
4 (1950. 8), 128.
- \* 労働省婦人少年局, 農村婦人の生活, 婦人関係資料シリーズ調査資料 7  
(1952. 8), 157.
- \* 労働省婦人少年局, 山村婦人の生活, 婦人関係資料シリーズ調査資料 18  
(1956. 8), 130.
- 島津 一郎 「奥能登の家族と婚姻—珠洲郡西海村字清水—」法経研  
究 1:1 (1951. 9), 79—100.
- 中島信也・畑 穰 「山村家族と家長的支配—鳥取県若桜町諸鹿部落調査  
報告—」法社会学 3 (1953. 1), 116—138.
- 川越 淳二 「開拓者とその家族—渥美半島の場合—」社会学評論 11  
(1953. 4), 92—112.

- 石原通子 「城北村大字種方の家族についての調査」家族社会学研究 1 (熊本女子大学社会研究部, 1953.12), 99—108.
- \*熊谷元一, 村の婦人生活, 新評論社 (1954. 3) 268.
- 光川晴之 「家族」1山村の実態調査—滋賀県東浅井郡東草野村甲津原— (ソシオロジ 5, 1954. 3), 32—44.
- 渡辺兵力 「農家の兼業化」農業総合研究 8:3 (1954. 7), 59—92.
- 舟橋諄一・青山道夫・中川高男 「天草島における家族制度」九州文化史研究所紀要 3.4 (1954.10), 48—64.
- 加用信文 「農業センサスに於ける農家の定義」農業総合研究 9:1 (1955. 1), 1—38.
- 加用信文 「農家兼業の概念」農業総合研究 9:3 (1955. 7), 49—95.
- \*内田寛一ほか(日本女子大学家政学部編), 農家生活の家政学的総合実態調査報告—於埼玉県箕田村—, 日本女子大学家政学部付属農家生活研究所 (1955. 3), 181.
- 池田志恵 「農村における家族関係の調査研究(上)」宇都宮大学学芸学部研究論集 5号1部 (1955.12), 148—165.
- 篠原武夫 「農村における社会的階層について—家格の考察—」東洋大学紀要 9 (1956. 2), 93—105.
- 山岸正子 「東北水田単作地帯農家の生活構造」東北農業試験場研究報告 7 (1956. 3), 1—78.
- 不破勝敏夫 「山村の家族制度」法律のひろば 9:3 (1956. ),
- 大山彦一 「戦後日本農村家族」鹿児島大学文理学部研究紀要社会科学報告 4 (1957. 8), 211—221.
- 原 宏 「兼業農家の家族構造」農村過剰人口の存在形態 (村落社会研究会年報 4, 時潮社, 1957.10), 83—107.
- 檜垣好子 「近郊農村家庭における衣生活の実態」関東学院短大論集 11 (1957.11), 16—33.

- 綿谷 赴 夫 「農家の社会的性格と階層分化」 農業総合研究 12:3 (1958. 7), 81—134.
- 竹内 利 美 「東北農村の家族—水田単作農村の場合—」 戦後農村の変貌 (村落社会研究会年報 5, 時潮社, 1958.10), 24—55.
- 館 逸 雄 「山村における家族生活の実態—埼玉県秩父郡大滝村上中尾部落—」 明治学院論叢 52:1 (1959. 2), 35—63.
- \* 柿 崎 京 一, 部落における『家』の消長, 新池調査委員会, 新池資料社会 6 (1959. 5), 108. (謄写印刷).
- 四方 寿 雄 「農村の家族制度 (特に家長権の強大性) について」 愛知県立女子大紀要 9 (1959. ), .
- 塚 本 哲 人 「日本人移民の家族に関する二・三の問題」 家—その構造分析— (創文社, 1959. 6), 143—161.
- 塚 本 哲 人 「開拓農家の社会と生活の構造」 開拓農家実態調査報告書 (北海道庁, 1959. ), .

## 9—2 漁 村 家 族

- 竹内 利 美 「漁家の形態について」 水産界 745 (1946. ), —
- 竹内 利 美 「漁業労働と家族」 水産 3:6 (1948. ), .
- 竹内 利 美 「漁業労働と家」 人文科学の諸問題 (八学会連合編, 関書院, 1949.11), 131—135.
- 潮 見 俊 隆 「農村の家族と漁村の家族」 水産 1 (1947. ), .
- 小 山 隆 「漁村家族の定着性について」 現代社会学の諸問題 (弘文堂, 1949. 2), 201—224.
- 熊 谷 開 作 「家族生活の原初形態—舩倉島の例—」 人文 4:1 (1950. ), 33—38.
- 中 川 善 之 助 「気仙の漁業家族」 法社会学 1 (1951. 3), 65—94.

- 不破藤敏夫 「漁村の家族形態—山口県熊毛郡上関村祝島の場合—」  
法律のひろば 4:9 (1951.12), 16—17.
- 塚本哲人 「家族」アメリカ村—移民送出村の実態— (福武直編,  
東京大学出版会, 1953. 3), 245—270.
- 小山隆 「石崎の家族」人類科学 7 (九学会連合編, 誠文堂新光  
社, 1954. 5), 188—193.
- \* 労働省婦人少年局, 漁村婦人の生活, 婦人関係資料シリーズ調査資料 22  
(1957.12), 48.

## 10. 都市家族

- 浅田宏 「大都市の家庭—教育社会学的考察—」教育科学 30 (19  
50. 4), 60—63.
- \* 労働省婦人少年局, 工場労働者家族の生活, 婦人関係資料シリーズ調査資  
料 8 (1952. 9), 137.
- \* 労働省婦人少年局, 中小工場労働者家族の生活, 婦人関係資料シリーズ調  
査資料 13 (1954. 2), 207.
- \* 労働省婦人少年局, 下層労働者家族の生活, 婦人関係資料シリーズ調査資  
料 19 (1956.12), 118.
- \* 労働省婦人少年局, 労働者家族の生活—扶養の問題を中心として—, 婦人  
関係資料シリーズ調査資料 20 (1957. 9), 46.
- 中野卓 「都市調査」社会調査の方法 (福武直編, 有斐閣, 1954.  
9), 71—110.
- 間宏 「工場労働者と家族生活」婦人と年少者 19 (1954.11),  
8—11.
- 間宏 「賃労働者の形成と家族」家—その構造分析— (創文社,  
1959. 6), 259—282.
- 桑畑勇吉 「家族結合の測定について (Ⅲ) —大阪市西成区 S 校下  
家族調査報告—」ソシオロジ 14 (1956. 9), 15—35.

- 大橋 薫 「地方都市家族の研究—家族形態並びに家族意識の問題を中心として—」 大阪市立大学家政学部紀要 4:4 (社会福祉学 4, 1957. 3), 31—43.
- 光川 晴之 「都市家族(その一)—サラリーマン家族と商人家族—」 社会福祉論集 (大阪女子大学社会福祉研究会) 13 (1957. 11), 77—105.
- 土屋 貞藏 「大津市に於ける家族」 滋賀大学学芸学部紀要 7 (1957. 12), 126—115.
- 岩井 弘融 「近代技術の家族生活に与える緊迫」 (東京都立大学) 人文学報 21 (1959. 9), 135—202.

## 11. 問題の家族

### 11—0 一般

- 松浦 孝作 「問題家庭の分析」 講座教育社会学 3 (1953. 9), 180—191.
- 上武 正二 「損われた家庭とは何か」 社会事業 37:4 (1954. 5), 38—42.
- 大橋 薫 「近代家族の病理」 大阪市立大学家政学部紀要 3:3 (社会福祉特集, 1955. ),
- 大橋 薫 「家族生活の諸問題」 家族・村落・都市 (講座社会学 4, 東大出版, 1957.11), 101—116.
- 野久尾 徳美 「社会福祉における家族集団論的視点」 福祉研究 8 (1958. ),

### 11—1 母子世帯

\* 労働省婦人少年局, 女世帯の実態(関東地方), 婦人関係資料シリーズ調査資料 6 (1951. 3), 153.

- \* 労働省婦人少年局, 全国の女世帯, 婦人関係資料シリーズ調査資料 14(1954. 3), 103.
- \* 関 清 秀, 母子世帯の研究, 北海道民生部 (1953. 3), 401.
- 関 清 秀 「母子世帯及び要保護者の生活」北海道生活白書 (1953. ), 223—240.
- 関 清 秀 「農村における母子世帯の生活の意識」村落研究の成果と課題(村落社会研究会年報 1, 時潮社, 1954.10), 240—244.
- \* 坂 寄 俊 雄, 未亡人実態調査報告, 大阪府未亡人協議会 (1955.12), 103.
- 桑 畑 勇 吉 「都市母子世帯の家族組織化と社会福祉」大阪市立大学家政学部紀要 3:1 (社会福祉学 3, 1956. 3), 37—45.
- 磯 村 英 一 「母子家庭」家族の扶養(現代家族講座 6, 河出書房, 1956. 8), 141—176.
- 佐藤政雄・佐藤 守 「東北農村未亡人家族の実態—宮城県栗原村・文字村の場合」社会学研究 7 (19 . ), 41—54.
- 富 田 浩 運 「母子世帯とその福祉対策」老令者母子の実態(大内兵衛編, 東洋経済新報社, 1958.10), 156—181.
- 雀 部 猛 利 「尼崎市母子世帯の実態調査」神戸女学院大学論集 5:3 (1959. 2), 49—79.
- 岡 村 重 夫 「母子世帯」現代日本の貧困(講座社会保障 I, 至誠堂, 1959.12), 208—221.

## 11—2 貧 困 世 帯

- 山 室 周 平 「要保護世帯の血縁的背景—静岡県三島市に於ける若干の事例について—」明治学院論叢 19 (1950. 8), 71—91.
- 藤 本 武 「農村における生活保護世帯の生活」社会事業 35:12 (1952.12), 47—55.



- 岸 勇 「山村の保護世帯—その生活と家計の構造—」社会事業 36 : 2.3 (1953. 3), 45—54.
- 村田松男 「保護世帯の構成研究—東京都に於ける悉皆調査より—」社会事業 36 : 2.3 (1953. 3), 55—60.
- \* 関 清 秀, 北海道における階層分化の形態と貧困の類型—都市の部(帯広市)—, 北海道総合開発委員会事務局 (1954. 3),
- 関 清 秀 「都市の貧困階層とその生活構造—帯広市における貧困と特に家族の集团的構造とその関係に関する研究」北海道大学文学部紀要 4 (1955. ), 26—75.
- 関 清 秀 「家族崩壊と貧困の類型—生活水準測定に関する社会学的研究」社会学評論 20 (1955. 4), 10—32.
- 小川政亮 「私法的扶養を中心としてみた被保護世帯の実態」社会事業 37 : 6 (1954. 7), 17—27. 同 37 : 9 (1954.11), 95—101.
- 富田富士雄 「スラム地帯における被保護・要保護及び一般世帯の家計調査」神奈川県社会福祉協議会 (1954. ),
- 中本博通 「要保護世帯の家族的特質—大津市 218 世帯の場合—」社会問題研究(大阪社会事業短期大学) 4 : 3 (1954. ), 同 4 : 4 (1954. ), 同 5 : 1 (1955. 2),
- 中本博通 「一家心中の課題と批判」大阪社会福祉研究 4 : 9 (1955), 29—31.
- 雀部猛利 「世帯類型より見たる公益質屋利用者階層の状態」神戸女学院大学論集 2 : 3 (1956. 3), 29—62. 同 3 : 1 (1956. 6), 23—52.
- 雀部猛利 「<sup>ボーダーライン</sup>要救護者階層の存在形態」社会事業 40 : 3 (1957.3), 同 40 : 7 (1957. 7), 16—35. 同 40 : 11 (1957.11), 58—64.
- 雀部猛利 「ボーダー・ライン層の設定に関する作業仮設」日本の貧困(日本福祉学会編, 有斐閣, 1958.12), 15—25.

- 中部社会事業短大社会事業研究室 「名古屋市工場地帯における生活扶助  
廃止世帯に関する調査」中部社会事業 4 (1956.11), 46  
—58. 同 5 (1957. 3), 39—64.
- 大 橋 薫 「仮小屋密集地域の実態」社会事業 40 : 7 (1957. 7),  
36—55.
- 桑 畑 勇 吉 「ボーダー・ライン層としての生活保護廃止世帯の分析」  
社会事業 40 : 11 (1957.11), 47—57.
- 桑 畑 勇 吉 「生活保護廃止世帯における要保護性の分析」日本の貧  
困 (日本社会福祉学会編, 有斐閣, 1958.12), 61—80.
- 石 崎 宣 雄 「調査にあらわれた保護世帯の実態」弘前大学人文社会  
17 (1959. 3), 126—138.

### 11—3 問題児の家庭

- 森 田 宗 一 「少年事件から見た家族生活における緊張と軋轢」家庭  
裁判月報 5 : 1 (1953. 1), 1—26.
- 森 田 宗 一 「少年事件から見た家族のテンション」社会的緊張の研  
究 (日本文科学会編, 有斐閣, 1953. 4), 27—61.
- 牛 窪 浩 「非行少年の家庭環境と鏡にみられる精神的特性」社会  
学評論 10 (1953. 2), 60—70.
- 牛 窪 浩 「少年犯罪者の家族的背景」社会事業 37 : 9 (1954.11),  
80—94.
- 植 村 正 「不良化と親子関係」児童心理 7 : 9 (1953.9), 54—58.
- 松 浦 孝 作 「問題児における欠損家庭の意義—コントロール・サン  
プルへの反省—」東京学芸大学研究報告 5 (1953.12),  
39—44.
- 高木四郎・菅野重道 「問題児の研究 (第1報) —親の態度と適応過程に  
ついて—」精神衛生研究 2 (1954. 2), 1—20.
- 大 久 保 満 彦 「問題児童と両親の態度について」社会事業 37 : 6 (19  
54. 7), 79—90. 同 37 : 9 (1954.11), 65—79.

- 大 浜 英 子 「家庭緊張と青少年」青少年問題 1:4 (1954.10), 6—12.
- 山 本 敏 雄 「精神薄弱児をもつ家庭内の葛藤と緊張」児童心理と精神衛生 4:6 (1955. 3), 12—32.
- 山 口 透 「家族と私生児」家族の扶養(現代家族講座 6, 河出書房, 1956. 8), 177—221.
- 須 賀 晋 一 郎 「少年非行の家族的・社会的条件について」教育社会学研究 9 (1956. ),
- 林 洋 子 「少年の不良化と家庭環境」家庭裁判月報 9:5 (1957. 5), 38—58.
- 大 浦 金 蔵 「少年保護事件より見たる家族の研究—非行少年と家庭(2)—」家庭裁判月報 9:7 (1957. 7), 59—101.
- 松 島 正 儀 「最近における児童問題の家族的背景」社会事業 41:6 (1958. 6), 3—11.
- 柏木 昭・西内育子・山崎道子 「家族診断の研究—児童治療における家族中心療法への階梯」精神衛生研究 7 (1959.3), 112—154.

## 12. 婚 姻

### 12—0 一 般

- \*川 島 武 宜, 結婚, 岩波書店(新書) (1954. 5), 235.
- 姫 岡 勤 「乱婚の概念と婚姻—婚姻の概念と本質(前篇)—」人文 1 (1955. 1), 97—109.
- 川 辺 喜 三 郎 「結婚について」早稲田学報 8:9 (1955. )
- 執行 嵐・有地 享 「婚姻と社会統制」結婚(家族問題と家族法Ⅱ, 酒井書店, 1957. 5), 51—100.
- 執 行 嵐 「農村の婚姻」結婚(家族問題と家族法Ⅱ, 酒井書店, 1957. 5), 264—296.

- 大間知篤三 「婚姻」日本民俗学大系 3 (平凡社, 1958. 6), 175—202.
- 中野卓 「結婚の社会学」書齋の窓 68 (1959. 6), 13—15.
- 辰野千寿 「結婚相手の選択の基準」青年心理 5:3 (1954. 9), 85—89.
- 村田昭敏 「結婚前の交際」結婚への道 (現代家族講座 2, 河出書房, 1956. 2), 47—96.

### 12—1 婚 姻 史

- \*柳田国男, 結婚の話, 岩波書店 (1948. 8), 312.
- \*有賀喜左衛門, 日本婚姻史論, 日光書院 (1948. 11), 296.
- 中川善之助 「婚姻史の問題」法律文化 4:3. 4 (1949. 4), 3—7.
- 小林計一郎 「江戸時代における1農村の結婚」信濃 3:8 (1951. 9), 22—24.
- 家永三郎 「婚姻生活の歴史」日本歴史 44 (1952. 1), 59—63.
- 鶴岡静夫 「嫁盗み—婚姻方式変遷の研究—」日本歴史 55 (1952. 12), 50—55.
- \*高群逸枝, 招婿婚の研究, 講談社 (1953. 1), 1225.
- 洞富夫 「奈良時代の夫婦別居制について」歴史評論 56 (1954. ), 29—46.
- 松本芳夫 「古代における近親婚について」史学 28:1 (1955. ),
- 布村一夫 「上代日本の異世代婚について」歴史学研究 182 (1955. 4), 3—12.
- 関敬吾 「婚姻の史的諸形態とその背景」結婚 (家族問題と家族法Ⅱ, 酒井書店, 1957. 5), 17—50.
- 金田純一郎 「唱和方式の婚俗をめぐつて (下)」京都女子大学紀要 16 (1958. ),

12—2 婚 姻 習 俗

- 瀬川清子 「沖繩の婚姻」民俗学研究 13:3 (1949. 2), 89—100.
- 瀬川清子 「婦人の地位(婚姻)—対馬の民俗と慣行—」人文 1:1 (1951. 5), 114—122.
- 瀬川清子 「娘のつれ」言語民俗論叢(金田一博士古稀記念, 三省堂, 1953. 5), 1325—1342.
- 瀬川清子 「若者仲間と婚姻について」人類科学 6(九学会連合編, 中山書店, 1954. 5), 52—56.
- 瀬川清子 「婚姻について」対馬の自然と文化(九学会連合編, 古今書院, 1954. 9), 362—368.
- 瀬川清子 「婚舎のあり方について」東洋文化 21 (1956. 3), 1—40.
- \*瀬川清子, 婚姻覚書, 大日本雄弁会講談社(1957. 6), 223.
- 瀬川清子 「アイヌの婚姻覚え書」民族学研究 21:3 (1957. 8), 46—56.
- 瀬川清子 「沖永良部島の婚姻」人類科学 10(九学会連合編, 新生社, 1958. 2), 189—203.
- 田辺繁子 「結婚の今昔—拝島村をたずねて—」教育と社会 4:8 (1949. 6), 55—60.
- 大間知篤三 「伊豆利島の足入れ婚—日本周辺島嶼の婚姻(1)—」民族学研究 14:3 (1950. 2), 76—81.
- 大間知篤三 「寝宿婚の1問題—併せて有賀喜左衛門氏に答える—」民間伝承 14:3 (1950. 4), 1—9.
- 大間知篤三 「足入れ婚とその周辺」民俗学研究 1(民俗学研究所編, 1950. 6), 1—64.
- 大間知篤三 「八丈島の女性—日本周辺島嶼の婚姻(2)—」民族学研究 15:1 (1950. 8), 11—21.
- 大間知篤三 「南予の泊り宿と婚姻—愛媛県北宇和郡御楨村—」民間伝承 22:6 (1958. 6), 4—8.

- 鎌田久子・高橋真澄 「伊豆大島村の婚姻と産育」民間伝承 15 : 7 (1951. 7), 11—13.
- 舟橋諄一・上村剛一・山田嘉一郎 「笹島の婚姻慣行—婚姻における『武士型』と『庶民型』—」法社会学 2 (1952. 4), 84—97.
- 奥野彦六郎 「南島の婚姻と集団」法社会学 3 (1953. 1), 139—155.
- 不破藤敏夫 「農漁村における婚姻前の男女交際の慣習—山口県下の家族制度の調査より—」法社会学 4 (1953. 7), 102—110.
- 川島武宣 「志摩漁村の寐屋婚・つまどい婚について」東洋文化 15. 16 (1954. 3), 1—54.
- 地主喬 「淡路島由良における寝宿婚について」兵庫史学 8 (1956. ), .
- 大山彦一 「訪問婚」鹿児島大学文理学部研究紀要 社会科報告 4 (1957. 8), 191—210.
- 郷田洋文 「嫁入の話」国学院雑誌 59 : 1 (1958. 1), 20—26.
- \*阪井敏郎, 志摩半島における海女の地位について, 社会福祉評論 (大阪女子大学社会福祉研究会) 15 (1958. 6), 114.
- 江馬三枝子 「白川村とその周辺の婚姻」日本民俗学 4 (1958. 12), 23—26.
- 宮川満 「大阪府のアシレ」大阪学芸大学紀要自然科学 7 (1959. 3), 259—270.
- 江守五夫 「本邦の<一時的訪婚>慣行の発生に関する社会構造論的考察」社会科学研究 (東京大学社会科学研究所紀要) 8 : 2 (1956. 12), 1—52. 同 8 : 5. 6 (1957. 3), 183—199.
- 江守五夫 「<前婚媾的自由交渉>慣行について—その本質と諸規範原理—」家族制度の研究 (下) (日本法社会学会編, 有斐閣, 1957 4), 233—300.

- 青山道夫 「逆縁婚について」日本家族制度の研究(1947. ), 111  
 山中文之祐 「明治期の逆縁婚」法制史研究 7 (1957.3), 112—130.  
 田中実 「逆縁婚の1断面—福島県における調査から」慶応大学  
 法学研究 30 : 10 (1957.10), 1—21.  
 佐藤政雄 「逆縁婚の1研究—山村のツギエンについて—」社会学  
 研究 6 (19 . ), 51—59.
- \* 農林省統計調査部(編) 農村の婚礼と葬儀—その費用の実態と社会経済的  
 考察—, 農民教育協会 (1954. 9), 224.

12—3 内 縁

- 高梨公之 「わが国内縁の1形相について—内縁原因の統計的研究—」日本法学(日本大学創立六十周年記念論文集, 1949.  
 10), 169—224.
- 高梨公之 「婚姻自由の社会的基礎について—婚姻の実態とその法  
 規的展開—」日本法学 16 : 1 (1950. 3), 1—30.
- 高梨公之 「内縁原因と婚姻の意識—内縁原因の統計的研究—」日  
 本法学 16 : 3 (1950.10), 1—29.
- 高梨公之 「内縁原因と婚姻の自由—内縁原因の統計的研究(4)  
 —」日本法学 18 : 1 (1952. 4), 34—64.
- 高梨公之 「わが国内縁の実態について」家族法の諸問題(穂積先  
 生追悼論文集, 有斐閣, 1952. 7), 111—137.
- 太田武男 「農漁村における内縁の実態」京大人文科学研究部調査  
 報告 4 ( . ), .
- 飯尾敏郎 「内縁原因に関する1考察—西陣調査—」家庭裁判所月  
 報 3 : 4 (1951. 5), 56—71.
- 飯尾敏郎 「内縁の実態—京都市を中心とする調査報告—」法学論  
 叢 57 : 3 (1951. 6), 69—99.

- 山本正憲 「婚姻届を通して見た婚姻の実態—岡山県津島市に於ける—」岡山大学法経学会雑誌 1 (1951. 7), 129—146.
- 不破勝敏夫 「結婚式日と婚姻届出日とのへだたり—山口県に於ける家族制度の調査 (1)」山口経済学雑誌 2 : 3 (1951.12), 58—72.
- 不破勝敏夫 「法律婚主義か事実婚主義か—山口県における実証的研究を中心として—」法律新報 760 (1952. 1), 37—43.
- 不破勝敏夫 「内縁関係の生ずる原因と弊害—山口県に於ける家族制度の調査 (2) —」山口経済学雑誌 2 : 4 (1952. 3), 78—90.
- 柳原嘉藤 「内縁についての諸問題—法律婚主義・事実婚主義の問題に関連して」家庭裁判月報 4 : 8 (1952. 8), 105—140.
- 武井正臣 「山陰における内縁—鳥取県山農漁村における婚姻届出に関する実態調査報告—」法社会学 5 (1954. 4), 122—136.
- 武井正臣 「結婚届に現れた内縁期間の研究」鳥取大学学芸学部研究報告 (人文科学) 5 (1955. 2), 152—164.
- 武井正臣 「婚姻届出の遅速と職業との関係」鳥取大学論集 (社会科学) 4 (1958. 2), 32—41.
- 竹内利美 「内縁の社会的実態」結婚への道 (現代家族講座 2, 河出書房, 1956. 2), 187—224.
- 今中武夫 「内縁について」滋賀大学学芸学部紀要 7 (1957.12), 114—105.

#### 12—4 通 婚 圏

- 中村治兵衛 「近畿農村の通婚圏」農業綜合研究 2 : 2 (1948. 4), 142—150.
- 村越尊詮 「同族と通婚圏」社会と学校 2 : 9 (1948. 9), 46—54.



- 山本 登 「通婚関係よりみた山村共同体の封鎖性と平等性」社会学評論 3 (1950.11), 123—151.
- 広瀬 武雄 「農村の通婚圏に関する研究 (1)」農林省農業技術研究所資料 7 (1952. ),
- 青木 治 「農山村社会における通婚圏と文化の滲透性」信濃 4:1 (1952. ), 65—73.
- 八木 佐市 「通婚圏調査に関する二・三の問題」ソシオロジ 2 (1953. 1), 9—29.
- 八木 佐市 「通婚圏調査について」修道短大論集 3:1 (1954. ),
- 近沢 敬一 「宮城県の一山村の縁組区域及び内婚率の意義について」社会学評論 12 (1953. 9), 164—167.
- 光川 晴之 「琵琶湖沖の島の通婚関係」大阪女子大学社会福祉評論 3 (1953. ),
- 小山 隆 「通婚圏の意味するもの」社会学の諸問題 (高田先生古稀祝賀論文集, 有斐閣, 1954. 3), 393—408.
- 池田 義祐 「通婚圏研究の社会的意義」大谷大学社会学年報 6 (1954. 4), 10—15.
- 池田義祐・佐々木永滋 「現代大都市における通婚圏について」社会学評論 26 (1957. 2), 57—71.
- 横田 忠夫 「山村における通婚関係について」人類科学 6 (九学会連合編, 中山書店, 1954. 5), 46—52.
- 佐藤 輝美 「農村における通婚圏について」三重法経 (三重短大法経学会) 2, (1954. ),
- 登地 恒三 「紀伊大島の調査, 通婚圏」地域調査 (人文地理学会編, 柳原書店, 1955.11), 84—85.
- 竹内 利美 「通婚圏についての一考察」社会学の問題と方法 (新明博士還暦記念論文集, 有斐閣, 1959. 6), 257—272.
- 合田 栄作 「日本に於ける通婚圏の諸研究と地理学的な問題点—縁組による人口移動の地域的研究 (12) —」香川大学学芸学部研究報告 (1) 12 (1959. 8), 162—202.

## 12-5 Inter-marriage

- 鈴木二郎・村武精一 「広島県O組の地域性、職業結婚について一部落問題その一」フィロソフィア 23 (1952. 1), 142—170.
- 佐藤密雄 「民主主義と異信者結婚」世界仏教 7:3 (1952. 3), 20—24.
- 滝沢敬一 「異宗教者の結婚」世紀 43 (1953. 1), 36—38
- 土井正徳 「結婚と憑物筋」家庭裁判月報 5:1 (1953. 1), 39—48.
- 池田義祐 「対俗婚について」大谷大学社会学年報 5 (1953.5), 8—17.
- 森岡清美 「町野町川西における真宗門徒の教団内婚」人類科学 6 (九学会連合編, 中山書店, 1954. 5), 219—232.
- 今泉孝太郎 「第三国人と日本人の結婚」新文明 4:9 (1954. ), 74—76.
- 由比正子 「Inter-marriageに関する諸学説の研究」アカデミア 11 (1955.12), 21—46.
- 曾我部静雄 「日本及び中国に於ける同姓不婚について」芸林 9:4 (1958. ),
- 勝又猛 「漁業村落研究の1視角—伊豆半島定置漁村における『縁組関係』を通じて—」社会学評論 33 (1958.10), 55—61.

## 13. 離婚

- 山木戸克巳 「離婚の四型態」法律文化 4:3.4 (1949. 4), 50—53.
- 山根常男 「離婚研究の方法と統計的調査の1例」アカデミア (南山大学南山学会) 2 (1952. 7), 104—130.
- 大浜英子 「離婚を中心にみた家族間の緊張—日本の家族緊張の特質—」社会教育 7:8 (1952. 8), 16—19.

- 大 浜 英 子 「家事事件からみた家族のテンション」社会的緊張の研究（日本文科学会編，有斐閣，1953. 4），62—75.
- 大 浜 英 子 「日本における家族緊張」児童心理 7 : 9 (1953.9)，16—23.
- 不 破 勝 敏 夫 「離婚調停の実態—山口県に於ける家族制度の調査（3）—」山口経済学雑誌 3 : 2 (1952.10)，74—90.
- 田 中 吉 備 彦 「婦人の教育程度と離婚」法学志林 50 : 2 (1952.12)，83—94.
- 市 川 四 郎 「家庭裁判所からみた離婚の生態」法律時報 25 : 7 (1953. 7)，14—21.
- 村 田 宏 雄 「夫婦の緊張関係と離婚に関する試論—離婚(内縁解消)調査結果の解析—」家庭裁判月報 5 : 12 (1953.12)，33—58.
- 村 田 宏 雄 「離婚の診断」離婚（現代家族講座 5，河出書房，1956. 6），99—133.
- 三 田 高 三 郎 「離婚裁判における伝統的觀念に関する若干の考察」経済系 22 (1954.10)，1—22.
- 土 井 正 徳 「離婚における制度的および非制度文化の葛藤について」家庭裁判月報 7 : 1 (1955. 1)，1—20.
- 土 井 正 徳 「夫婦関係において妻の心理における『そうすれば』と『それで』について」家庭裁判月報 9 : 4 (1957. 4)，1—17.
- 加 藤 正 男 「統計にあらわれた離婚の実態」同志社法学 7 : 4 (1955. )，55. )，
- 大 塩 俊 介 「離婚の意味」離婚（現代家族講座 5，河出書房，1956. 6），39—97.
- 桑 畑 勇 吉 「離婚の実態」離婚（現代家族講座 5，河出書房，1956. 6），7—38.
- 山 田 侃 「離婚と子供の処置」離婚（現代家族講座 5，河出書房，1956. 6），193—220.

- \* 太田武男, 離婚原因の研究, 有斐閣 (1956.7), 583.
- 大阪谷公雄 「裁判所に現われた婚姻問題」結婚 (家族問題と家族法 II, 酒井書店, 1957. 5), 341—364.
- 四方寿雄 「離婚原因の実証的研究」愛知県立女子大学紀要 8 (1957.12), 56—69.
- 田辺繁子・大浜英子 「協議離婚の実態調査」法律時報 30:3 (1958. 3), 65—69.
- 横山定雄 「再婚の問題」離婚 (現代家族講座 5, 河出書房, 1956. 6), 221—256.
- 桑原勇吉 「都市離婚の地域的分布について—社会病理の生態学的方法の1例—」社会福祉論集 3 (1955.10), 36—54.

#### 14. 相 続

##### 14—0 一 般

- \* 中川善之助, 相続法の諸問題, 勁草書房 (1949.11), 212.
- 洞富雄 「相続」家 (郷土研究講座 3, 角川書店, 1958.1), 162—186.

##### 14—1 農 地 相 続

- 中村治兵衛 「旧相続制の統計的分析」農業総合研究 4:2 (1950.4), 27—81.
- 中村治兵衛 「農地相続をめぐる問題」農業総合研究 6:1 (1952.1), 101—132.
- 福武直 「農地相続と次三男の問題」農業問題 11 (1951. ),

- \* 日本私法学会相続調査会, 農家相続の実態—農家別調査資料—, 農林省農林経済局 (1952. 8), 286.

- 神谷 力 「農業家族における均分相続の問題について—その実態分析」法社会学 3 (1953. 1), 98—115.
- 関西学院大学法律研究部 「家島に於ける相続に関する実態調査報告」法と政治 4 : 1 (1953. 3), 71—127.
- 中尾 英俊 「都市近郊における農家相続」農業総合研究 7 : 2 (1953. 4), 199—236.
- 上村 剛一 「農村に於ける相続実態についての1考察—農業経営の細分化との関係—」鹿児島大学文理学部研究紀要社会科学報告 1 (1954. 3), 144—165.
- 唄 寿一・渡辺洋三 「農村の相続形態」法律時報 26 : 9 (1954. 9), 29—38. 同 27 : 2 (1955. 2), 58—72.
- 宮崎 俊行 「果樹栽培農家における相続の実態と考え方—長野県小布施町に於ける調査の報告とその教えるもの—」法学研究 30 : 8 (1957. 8), 32—60. 同 30 : 9 (1957. 9), 17—40.
- \*小林 茂・米村昭二・根岸義夫, 相続制の研究, 国際基督教大学農村厚生研究所紀要 2 (1958. 8), 222.

#### 14—2 末子相続

- 矢崎 源蔵 「諏訪地方の末子相続」信濃 4 : 1 (1952. ), 58—65.
- 大山 彦一 「末子相続より長子相続へ」鹿児島大学文理学部研究紀要文科報告 2 (1953. ), 383—402.
- 菊地 博 「長崎県諫早市小野における末子乃至非長子相続制について」法社会学 4 (1953. 7), 111—126.
- 竹田 旦 「末子相続考」日本民俗学 1 : 3 (1954. 1), 41—65.
- 森田 誠一 「末子相続制の経済史的考察—熊本県天草郡の1例について—」熊本史学 7 (1954. 6), 26—35.
- 中川 善之助 「末子相続について」家族制度の研究(下)理論と実態(日本法社会学会編, 有斐閣, 1957. 4), 43—74.

野久尾徳美 「薩南地方に於ける末子相続の1研究—分家と相続の慣行—」東洋大学紀要 11 (1957. 4), 49—71.

上野裕久 「宮崎県日杵郡における相続形態と経済的基礎」法社会学 10 (1957. 6), 153—174.

#### 14—3 そ の 他

高梨公之 「妻の相続放棄—その地盤と意識—」日本法学 17 : 5. (1952. 3), 1—31.

山本登 「未解放部落の家族—相続制度を中心として—」人文研究 (大阪市立大学文学会) 6 : 10 (1955.10), 47—60.

小林三衛 「初生女子相続の1考察—相続と労働力(1)農村の部1, 茨城県とくに新治郡について—」法社会学 6 (1956. 3), 145—166.

小林三衛 「相続の基本問題に関する予備的考察」茨城大学紀要社会科学 4 ( . ), 15— .

森岡清美 「真宗寺院の相続制度」社会と伝承 2 : 3 (1958. 8), 7—19.

### 15. 隠 居

#### 15—0 一 般

竹内利美 「隠居と養子」家(郷土研究講座 3, 角川書店, 1958. 1), 187—211.

宇佐美鉦治 「隠居制度」中京大学論叢 5 : 2 (1958. 7), 109—123.

#### 15—1 隠 居 習 俗

大間知篤三 「隠居家族制について」人類科学(八学会連合年報 2, 関書院, 1950.11), 114—119.

大間知篤三 「オモテとヨマー対馬の家の複世帯制—」言語民俗論叢(金田一博士古稀記念, 三省堂, 1953. 5), 1295—1324.

- 大間知篤三 「佐須村久根浜の隠居」対馬の自然と文化（九学会連合編，古今書院，1954. 9），369—372.
- 大間知篤三 「隠居と婚姻」人類科学 11（九学会連合編，新生社，1959. 4），35—42.
- 大間知篤三 「選定相続と隠居」社会と伝承 3：2（1959.5），1—10.
- 竹田 旦 「分住隠居制の問題」日本民俗学 3：4（1956. 3），1—23.
- 竹田 旦 「隠居家族制の研究」東京教育大学文学部紀要 10（1956.12），1—29.
- 竹田 旦 「隠居制の1問題」人類科学 11（九学会連合編，新生社，1959. 4），42—50.
- \*多田 伝三，阿波における隠居制，自費出版（1957. 4）31.
- 姫岡 勤・長谷川昭彦・土田英雄 「志摩国府の隠居制」社会学評論 36（1959. 6），75—92.

15—2 老人問題

- \*桑畑 勇吉，大阪市老人生活実態 調査報告，大阪市 社会福祉 協議会（1954. ），
- 金子 貞子 「親と子の諸問題—老後の不安をどうするか—」社会事業 37：8（1954.10），10—18.
- 岡本 重夫 「都市老人の社会福祉問題」大阪市立大学家政学部紀要 2：1（社会福祉学，1955. 3），1—14.
- \*鉄道弘済会，老退職公務員の生活調査—国鉄退職者の場合—（1956. 3），90.
- 那須 宗一 「都市老人の社会的変化と生活意識について」寿命学研究会年報 1（1956. 7），72—77.
- 橘 覚勝・那須宗一 「老人の座」家族の扶養（現代家族講座 6，河出書房，1956. 8），223—266.

- 那 須 宗 一 「老人の社会病理」中央大学文学部紀要, 哲学科 3 (1957. 3), 15—34.
- 大 間 知 千 代 「都市と農村における老人の生態比較」社会事業 40 : 9 (1957. 9), 3—22.
- 大 間 知 千 代 「ある老人 Community の実態」寿命学研究会年報 2 (1957.12), 277—289.
- 斎 藤 昌 男 「都市の老人問題—家族と老人の問題を中心として—」都市問題 49 : 3 (1958. 3), 1—11.
- 大 道 安 次 郎 「家族の近代化と老人」西南学院大学 商学論叢 4 : 2.3 (1958. ),
- 大 道 安 次 郎 「老人の村落型と都市型」人類科学 11 (九学会連合編, 新生社, 1959. 4), 29—34.
- 安 食 正 夫 「老人と家族の人間関係」社会事業 41 : 9 (1958. 9), 3—10.
- 大 島 清 「農村における老人の生活実態」高齢者母子の実態 (大内兵衛編, 東洋経済新報社, 1958.10), 203—242.
- 湯 沢 雍 彦 「家庭裁判所にあらわれる老人扶養の問題」寿命学研究会年報 3 (1959.11), 99—106.
- 舟 橋 徹 子 「老令者」現代日本の貧困 (講座社会保障 I, 至誠堂, 1959.12), 193—207.
- 大 橋 薫 「扶養の実態」家族の扶養 (現代家族講座 6, 河出書房, 1956. 8), 267—293.
- 及 川 伸 「東北山村における親族扶養の実態—宮城県刈田郡七ヶ宿村横川部落の場合」法社会学 10 (1957.6), 175—197.

## 16. 分 家

- 中 村 治 兵 衛 「戦後農村の分家」農業総合研究 6 : 3 (1952. 7), 147—186.



- 竹内利美 「農村家族の動態—分家慣行を中心として—」 東北大学  
教育学部研究年報 2 (1953.12), 1—60.
- 遠藤 浩 「分家についての諸問題—農村の家族制度の1考察」 学  
習院大学政経学部研究年報 1 (1954. ), 113—152.

## 17. 外国の家族

### 17—1 中国の家族

- \*福武 直, 中国農村社会の構造, 大雅堂 (1946.10), 507.
- 仁井田 陞 「華北農村に於ける家族分裂の実態」 東洋文化研究 4(19  
47. 6), 1—35.
- 仁井田 陞 「中国農村の離婚法慣習」 中国研究 2 (1947.11),
- 仁井田 陞 「中国の家」 東洋の家と官僚 (生活社, 1948.12), 35—  
84.
- 仁井田 陞 「宗代の家産法における女子の地位」 家族法の諸問題  
(穂積先生追悼論文集, 有斐閣, 1952. 7), 33—63.
- \*仁井田 陞, 中国の農村家族, 東大出版 (1952. 8), 406.
- 仁井田 陞 「中国の家父長権力の構造」 法社会学 4 (1953.7), 1—  
36.
- \*内田 智雄, 中国農村の家族と信仰, 弘文堂 (1948. 9), 303.
- 内田 智雄 「中国農村における結婚と世代の問題」 同志社法学 1  
(1949.6), 56—82. 同 2 (1949.11), 92—100.
- 内田 智雄 「華北農村家族における祖先祭祀の意義」 同志社法学 6  
(1950),
- 内田 智雄 「中国農村家族に於ける分家事由の1考察」 同志社法学  
8 (1951 3), 17—37.
- 内田 智雄 「中国の分家制度と『家』の性格」 同志社法学 17 (19  
53. 5) 62—78. 同 18 (1953. 7), 69—95. 同 19 (19  
53. 8), 131—156.

- \*内田 智雄, 中国農村の分家制度, 岩波書店 (1956. 1), 460.
- 有賀 喜左衛門 「親族称呼の本質に関する考察—漢民族の親族称呼を通じて—」 現代社会学の諸問題 (弘文堂, 1949. 2), 11—33.
- 林 恵海 「中国農家の均等分産相続の研究」 現代社会学の諸問題 (弘文堂, 1949. 2), 65—119.
- 林 恵海 「農村親屬人口調査からみた中国農家の家族制度の大小の研究」 社会学の諸問題 (高田先生古稀祝賀論文集, 有斐閣, 1954. 3), 37—73.
- 牧野 巽 「中国の古代家族は経済的自給自足体に非ず」 社会科学評論 5 (1950. 2), 29—67.
- 牧野 巽 「東亜米作民族における財産相続制の比較」 社会学評論 1 (1950. 7), 132—187. 同 11 (1953. 4), 2—22.
- 内藤 莞爾 「中国家族の世代について」 社会学評論 2 (1950. 9), 116—134.
- 松本 雅明 「中国古代の婚姻定齡思想」 民族学研究 16 : 2 (1951. 11), 42—50.
- 佐藤 貢 「中国家族構成員としての妾」 学芸評論 2 (1952. 5), 40—44.
- 中村 治兵衛 「中国の家産分割と農業経営」 農業総合研究 8 : 1 (1954. 1), 109—144.
- 柴 三九男 「東洋的社会における家族関係の問題点—伝統的關係とその崩壊—」 関東学院短大論叢 12 (1958.10), 1—14.

## 17-2 そ の 他

- \*青山 道夫, 家族史の諸問題, 竜吟社 (1949. 4), 219.
- 田中 周友 「旧約聖書に見る親と子との関係—ローマにおける父権を省察しつつ—」 法律文化 4 : 3.4 (1949. 4), 40—41.

- 高山 一十 「古代スパルタにおける家の解体—相続の Sitte に関連して—」西洋史学 13 (1952. 5), 36—38.
- 有泉 享 「朝鮮の養子制度」家族法の諸問題 (穂積先生追悼論文集, 有斐閣, 1952. 7), 279—303.
- 岩村 忍 「イスラムの家」東洋の家と官僚 (生活社, 1948.12), 97—113.
- 中村 元 「印度の家」東洋の家と官僚 (生活社, 1948.12), 3—25.
- 小山 栄三 「印度の家族制度」現代社会学の諸問題 (弘文堂, 1949. 2), 177—200.
- 小山 栄三 「印度の家族制度と婦人の地位」日本女子大学紀要 1:1 (1952. ),
- 辻 直四郎 「古代印度の婚姻儀式」東洋文化研究 11 (1949. 5), 1—43.
- 米村小夜子 「イスラム諸国における養子について」東洋文化 15.16 (1954. 3), 96—119.
- 胡麻本 蔦一 「ソヴェートの家族制度—婚姻法の変遷を中心として—」法律文化 4:3.4 (1949. 4), 34—37.
- 佐瀬 仁・岩本誠吉 「ソ連の家庭に於ける労働教育」現代心理 1 (1949. 7), 80—87.
- 福島 正夫 「ソヴェト家族の諸問題」社会学評論 8 (1952. 6), 21—28.
- 小森 哲郎 「ソヴェト家族法の発展と特質」東京外国語大学論集 3 (1953. ),
- 村井 研治 「19世紀におけるロシア文学に現れた父権」社会学評論 30 (1958. 2), 61—70.
- 稲子 恒夫 「ソヴェト農村家族における世帯財産共有制」名古屋大学法政論集 11 (1958. ),

- 住谷一彦 「ゲルマン的共同体の家族構造」村落共同体の構造分析  
(村落社会研究会年報 3, 時潮社, 1956.10), 232—257.
- 山室周平 「戦後イギリスの老人生活と親族集団—タウンゼントの  
東ロンドン調査報告に寄せて—」法社会学 10 (1957.6),  
198—210.
- 塚原仁 「仏蘭西に於ける婚姻の動向」経営と経済 34:2 (1955.
- 高橋伊一郎 「アメリカ合衆国の兼業農家」農業総合研究 8:2 (1954.  
4), 289—296.
- 菊池綾子 「アメリカにおける婚姻思想の展開」結婚 (家族問題と  
家族法Ⅱ, 1957. 5), 131—154.
- ストラoup, A. L. 「アメリカの配偶者選択制度」(関清秀訳) 社会学評  
論 33 (1958.10), 62—68.
- 米村昭二 「アメリカにおける農場相続をめぐる問題—二つの調査  
研究の比較を通して—」社会学評論 34 (1958.12), 37  
—66.
- 島田正郎 「モンゴリアの遊牧の民における家族」(明治大学) 法  
律論叢 31:1 (1957.10), 1—23.
- 海野悦子 「未開社会の親と子—M. Mead の Manus 族調査に拠  
って—」茨城大学文理学部紀要 (人文科学) 7 (1957.  
3), 13—23.
- 中根千枝 「ナヤール母系大家族制の崩壊について」東大東洋文化  
研究所紀要 14 (1958. 3), 1—131.
- \*増田福太郎, 未開人の家族関係, 岡山大学法経学会 (1958. 9), 193.
- 高橋統一 「家族と年齢集団—東アフリカ Jie 族の場合—」社会人  
類学 2:3 (1959. ), 15—31.
- 蒲生正男 「未開社会の家族」統計 10:11 (1959.11), 11—16.

## 戦後に於ける家族研究の動向

## —文献目録による回顧と展望—

1. 終戦直後の日本社会学において、実証的研究の見るべきものは殆んど家族および村落の分野に限られたといってもよい状態であった（小山隆「社会学」現代の社会学Ⅱ所収、1948.10刊、317頁）。しかるに、林恵海氏の遺暦を記念して捧げられた「日本社会学の課題」（1956年3月刊）には、家族や同族団・農村と並んで都市・社会的成層・労働・教育・小集団・犯罪・世論などの各分野の研究課題が論ぜられているのを見ると、社会学の研究分野が急速に分化したこと、そして、家族への関心が相対的に薄まったことを痛感せしめられる。しかし家族研究の内側に注目すると、これまた著しく分化拡大して内容が豊富になり、研究業績の数も戦前の比ではない。戦前からのベテランの業績を除いて、まとまった大著はまだ発表されていないが、研究論文の数は実に夥しい数に上るのである。研究の内容また戦前と同日の談ではない。戦後の日本社会の体制的变化とそのなかで家族が蒙った大きな変化、また他方では社会学全体の動向を反映して、家族研究も戦前とは異なる様相を帯びることはむしろ当然というべきであろう。本稿は社会学における戦後15年間の家族研究を文献目録によって回顧し、研究内容にどのような変化が見られるかを論評しようとするもの、そこから将来の展望をもひき出しうれば幸である。

2. 終戦の1945年から1949年までをA、1950年から1954年までをB、1955年から1959年までをCと、5年刻みに3期に分って、各時期別に家族研究の合計（論文のみ）を求めると、A期55・B期250・C期331、1年平均でいえばA期11・B期50・C期66という数字がえられる。これは家族研究の量が実に躍進的な伸展を遂げたことを示して遺憾がない。収載した文献のなかには厳密には社会学的貢献とみなしえぬものも少からず含まれているが、それらも家族の社会学的研究のために参照さるべき文献たるを失わ

ない。また他面では、見落した研究も尠くないことを懼れるが、これにて主要なものはほぼ網羅したとみなしてよいように思われる。それゆえこの文献目録を根拠とした集計は、よし正確を期しえないにせよ、動向の少くとも輪廓はこれを示しうるといってよいであろう。なお、5年毎の刻みは甚だ機械的で研究史の時期区分として意味が少ないように見えるが、第1表に示したとおり、一般社会の動向や社会学界の動向からしても、また家

第 1 表

	一 般	社 会 学 界
A 再 建 期	45 敗 戦	日本社会学会の年次大会再開 日本社会学会機関誌「社会学研究」創刊( ~'48) 日本法社会学会創立 「社会圏」創刊( ~'48) 東京社会科学研究所機関誌「季刊社会学」創刊 ( ~'50) 田辺寿利編「社会学大系」9巻刊行 東京社会科学研究所編、現代の社会学4巻刊行 ( ~'49)
	46 日本国憲法制定	
	47 民法の一部を改 正する法律	
	48	
	49	
B 発 展 期 (一)	50 朝鮮動乱勃発 ドッジ・ライン	日本教育社会学会創立 日本社会学会機関誌「社会学評論」創刊 東北社会学研究会機関誌「社会学研究」創刊 日本教育社会学会機関誌「教育社会学研究」創刊 日本法社会学会機関誌「法社会学」創刊 社会学研究会機関誌「ソシオロジ」創刊 村落社会研究会創立 海後宗臣・牧野巽編、講座教育社会学7巻( ~'56) 日本都市学会創立 村落社会研究会年報創刊
	51 平和条約調印	
	52	
	53	
	54	
C 発 展 期 (二)	55	戸田貞三致 小山・磯村・川島編、現代家族講座6巻( ~'56) 家族問題研究会創立 家族問題研究会共同研究を実施('56, '57 両年度) 都市問題(47:6) 主集: 都市の家族 福武・日高・高橋編、講座社会学10巻( ~'58) 中川・青山・玉城・福島・兼子・川島編、家族問題 と家族法3巻( ~'58)
	56 国際連盟へ加盟	
	57	
	58	
	59	

族研究の分野での出来事からみても、A・B・Cの三時期をわれわれのよ  
うに区分することは十分に根拠ありと称しうる。すなわち、A期は学界の  
再建と新たな出発の時代、B期は専門領域別・地域別の研究グループが組  
織されて活発な活動を開始した時代、C期はB期の継続であると共に、と  
くに家族社会学の分野では、現代家族講座(河出書房6巻)・家族問題と家族法(酒  
井書店8巻)が刊行され、家族問題研究会が発足したのみならず、同研究会有志  
による共同研究「新制度下における家族の実態研究」が56年以降実施され  
て一層の発展期に入ったといえよう。それゆえ、問題領域別の、いわば横  
の分類に加えて、A・B・C三期に縦に区分して時期別の比較を試みるこ  
とは、動向の把握のためにきわめて有効であるといわねばならぬ。

3. そこで、このような観点から作製した第2表を文献目録と照合する  
と、次の諸点が著しい動向として注目されよう。

- (1) 家族社会学史とよびうる戦前に例を見ない新たな領域が出現したこ  
と。——研究史は小山・執行嵐、学説史は山室周平の貢献が著しい。
- (2) 家族史の分野では、近世の家族をとりあつかうものがB期以降圧倒  
的に多い。戦後日本史家がこの方面に進出したことは顕著な事実であ  
る。

第 2 表

	単 行 本			論 文			計
	A	B	C	A	B	C	
1 総 説	1	2	4	5	8	13	[33]
2 家族社会学史				2	8	7	[17]
2-1 家族研究史				2	3	2	7
2-2 家族学説史					5	5	10
3 家 族 史	4		3	10	23	24	[64]
3-0 一 般	3		1			1	5
3-1 古 代・中 世	1		1	5	5	6	18
3-2 近 世				4	17	14	35
3-3 近 代			1	1	1	3	6
4 家族の人口論			1	2	6	17	[26]
4-1 結 婚・離 婚			1	1	2	6	10
4-2 家 族 計 画				1		3	4

	単行本			論文			計
	A	B	C	A	B	C	
4-3 世帯					4	8	12
5 家族の形態			3	3	11	27	[44]
5-1 家族構成				1	7	10	18
5-2 大家族			2		1	7	10
5-3 家族類型				2	1	4	7
5-4 家族周期			1		2	6	9
6 家族の内部構造	1	3	9	2	24	62	[101]
6-1 地位・役割	1		1	1	1	7	11
6-2 人間関係一般		1	2		3	10	16
6-3 夫婦関係		1	2		6	20	29
6-4 親子関係		1	2	1	12	20	36
6-5 きょうだい関係					1	3	4
6-6 嫁と姑			2		1	2	5
7 家族の機能		1		2	24	19	[46]
7-0 一般					1	5	6
7-1 教育的機能		1		2	23	14	40
8 家族の動態			1	2	14	20	[37]
8-1 「家族主義」			1	2	10	11	24
8-2 家族の解体					2	4	6
8-3 家族の変動					2	5	7
9 農山漁村家族		3	4	6	12	15	[40]
9-1 農山村家族		3	3	1	7	15	29
9-2 漁村家族			1	5	5		11
10 都市家族		2	2		3	6	[13]
11 問題の家族		4	1		20	27	[52]
11-0 一般					2	3	5
11-1 母子世帯		3	1		2	6	12
11-2 貧困世帯		1			7	11	19
11-3 問題児の家庭					9	7	16
12 婚姻	2	3	2	7	48	36	[98]
12-0 一般		1			1	7	9
12-1 婚姻史	2	1		1	4	4	12
12-2 婚姻習俗		1	2	3	13	14	33
12-3 内縁				1	12	4	17
12-4 通婚圏				2	11	4	17
12-5 Intermarriage					7	3	10
13 離婚			1	1	9	12	[23]



	単行本			論文			計
	A	B	C	A	B	C	
14 相続	1	1	1		14	9	[26]
14-0 一般	1					1	2
14-1 農地相続		1	1		8	1	11
14-2 末子相続					5	3	8
14-3 その他					1	4	5
15 隠居		1	2		4	23	[30]
15-0 一般						2	2
15-1 隠居習俗			1		3	6	10
15-2 老人問題		1	1		1	15	18
16 分家					3		[3]
17 外国の家族	3	1	2	13	19	14	[52]
17-1 中国の家族	2	1	1	6	12	1	23
17-2 その他	1		1	7	7	13	29
合計	12	21	36	55	250	331	[705]

- (3) 家族の人口学的研究は比較的少数ながらも急増の姿勢を示しており、同じ傾向はこれとわめて接近した研究領域である家族の形態にも見られる。後者のなかでは戦前からの伝統をもつ家族構成の分析が依然として多い。しかも都市家族の構成を論じた文献が各地から出はじめたことは新しい傾向である。白川村の大家族もしばしば問題にされているが、大家族の解体という観点が優勢と思われる。類型論ことに周期論が次第により活発に論ぜられるようになり、この方面の文献もかなりあらわれた。
- (4) 家族の内部構造をとりあげる論文の数が著しく急増した。これは主として心理学者の貢献であるが、社会学にとっても注目に価するの項をあらためて述べる。
- (5) 家族の機能は依然未開拓であるが新しい試みは始められており、ことに教育的機能を分析した論文だけが目立って多い。これは主にパーソナリティの形成との関連において論じたもので、教育社会学や心理学の分野からの貢献に属する。
- (6) 家族の動態をあつかった論文は比較的多く、かつ増加の傾向を示し

ている。これも戦後の注目すべき動向とというるので再説したい。問題の家族も同様である。

- (7) 婚姻の文献は家族の内部構造の研究について多いが、B期をピークとして以後停滞気味である。そのうち婚姻習俗に関するものは従来から民俗学者の貢献であり、戦後法社会学者がこれに加った。ことに内縁の研究は法学者の独壇場ともいうべき分野である。社会学者は戦前から通婚圏の調査に集中する傾きが著しかったが、近時その関心が薄らいだように思われる。なお、内婚・外婚の問題も散発的ながら論ぜられている。
- (8) 離婚の文献はわりに少数とはいえこれまた急増した。家族の動態や内部構造に対する関心と密接な連絡のある分野である。
- (9) 相続の研究は農地相続と末子相続とに集中した。末子相続は民法学者の戦前からの問題である。農地相続は戦後の問題で、農業経済学者もこれに加ったが、社会学者は大して参加することなく、すでに研究のピークを過ぎた感がある。
- (10) 隠居はもともと民俗学者が強い関心をもった領域である。社会学者は近年これを老人問題として把握し、老人学の一環として研究するようになった。文献も少なくない。
- (11) 外国の家族のうち中国の家族はほぼ半数を占めるが、おおむね戦時中の研究を戦後発表したもので、A・B二期に集中している。

4. 以上のうち、とくに顕著な発展を示した戦後の新しい研究領域である家族の動態・問題の家族・家族の内部構造について述べてみたい。

小山は1948年の「回顧と展望」において、家族構成員の態度に関する社会心理学的追求と家族の動態的調査の必要を強調したが、後者を説明して次のごとくいう。「従来の家族研究は多くは伝統的家族の特徴をとらえる事に興味をとどめて、その動きつつある姿に対しては未だ十分の関心が向けられてゐない状況にある。(中略)現代日本の家族が都市と農村に於いてどのやうな時代的前後の実情にあるか、しかもそれぞれがどのやうに急激

な或いは緩慢な変化を示しつつあるかを明確に分析すると共に、新たな法の規定の急転換によって具体的な家族関係や家族機能がどのやうに変化してゆくかを仔細に観察しなければならぬ。」(92頁)と。かようにこの方面の研究の重要性をあたかも予言者の如くに強調したが、そればかりでなく、小山が戦後発表した数々の研究は集中的にこの点を志向し、実際の研究面でも指導的地位を維持した。小山の動態研究は家族構成と家族意識の二つに大別しようと思うが、後者においてさきに指摘された「態度調査」と「動態的調査」の二面が結合したことは顕著な事実である。それが最も大規模にかつ組織的に行われたのは、1956年以降彼が主宰した前掲の共同研究であって、間もなく公刊されるその成果(現代家族の研究—実態と調整—)は戦後の家族研究の一記念碑たることを失わないであろう。

動態的研究の過半は、いわゆる「封建家族」(小山の「遺語」)・「封建的家族主義」(福武の「遺書」)・「家族主義」に関するものである。「家族主義」は克服されるべき問題として戦後間もなくまず福武直によってとりあげられ、ついで日本文科学会の封建遺制に関するシムポジウムで討議され、中野芳彦・川越淳二などもその実態の究明に向ったが、さきに言及した小山らの業績が最も注目に価する。それは、東京都下の山村・近郊村・戸山アパートという都市性と住民構成を著しく異にする3地点で、伝統的家族意識の支持率を比較調査したものである。しかし単なる意識調査では意識の上ずみをすくうことになり、変化を過大に評価する傾きがあることは、我妻洋(218頁)が行ったPST (Problem Situation Test) およびTATによる調査の結果明らかにされた。意識調査には、意識の深層にまでメスが届くような周到な用意が必要であろう。

「家族主義」の研究は、どちらかというといわゆる cultural lag, あるいは我妻のいう psychological lag をえぐり出すことに主なモチーフがあったように見える。少くとも結果はそうしたことになったのは、この研究が農山村の家族をとりあげることが多かったことによる。しかるに都市家族をとりあげた研究者は、伝統的規範の崩壊という問題の把握に傾いた。

そこから家族の解体の議論へ道が通ずるのであって、大橋薫・雀部猛利・桑畑勇吉・田村健二らがこれに加ったが、概説的というか理論的というか、まだ実証の段階にまで下降していない現状である。一体、解体とは家族が集団性を喪失してバラバラの個人になることなのか、それとも傍系親が既婚の子を排除して家族構成が単純になること、パースンズの表現に従うなら nuclear family の析出 isolation であるのか、明らかでないが、ともかくこの発想は lag の発想に対比して、戦後の家族が大きい変化を蒙りつつあることを強調する上に便利であった。

家族の変動論は lag の観点から見るとしても、ないし第二の意味での解体の観点からとりあげるにしても、ともに筆者の家族類型の(2)直系家族から(1)一代家族への転化を問題にする点では一つである。そこで(2)から(2)への変化もこれに関連して見ておきたい。すなわち、いわゆる大家族の解体の問題であって、さきにふれたように、戦後の大家族研究は多かれ少なかれ(2)直系家族への縮少を追跡している点に共通の特色が見られる。縮少の事実はもとより戦前に属するが、この取上げ方自体は戦後のものである。白川村の大家族については福島正夫と玉城肇の研究がすぐれており、南部石神の大家族の崩壊以後を報じた有賀喜左衛門の文章は小品ながら掬すべきものが多い。

5. 家族の動態的研究をひきおこしたほどの激しい現実の変動には、病理学的な側面の存することを否定できない。とくに「家族の解体」というときには、nuclear family の析出に加えてこうした側面が含まれているが、さらにこの面を具体的かつ直接にとりあつたのが「問題の家族」に含められた研究である。なかでも都市家族を調査した研究者は、殆んど例外なく問題の家族あるいは家族問題に関心を向けた。そのうち第一は母子世帯・女世帯・未亡人世帯の問題、第二は貧困世帯・要保護家族の問題と分ちうるが、両者は密接に関連した領域であって、関清秀・中本博通・雀部・大橋・桑畑らの貢献がある。第三は問題児の家庭環境の調査研究であって、これには社会学以外からの接近が少なくない。第一と第二の研究

は役所の依頼に応じて行ったものが多いようで、家族研究の有用性が発揮された重要な領域である。

これに関連して述べておきたいのは、老人問題の研究が近年新たに登場したことである。家族との関連であつかわれた老人研究は、文献の数でいえば、隠居の項の実に3分の2を占める。老人問題は寿命の延びと扶養に関する意識の変化から必然的にもたらされた戦後的な問題であって、桑畑・那須宗一・大道安次郎などが活発な議論を展開している。かように、現実の家族問題の究明を志すことは、戦後の家族社会学の顕著な特色の一つと言えよう。

6. すでに述べた通り、家族の動態的研究もまた戦後の家族研究の特色のひとつであることは多言を要しないと思われる。そこには、家族構成員の態度とか、家族の解体とか、とにかく家族を構成員個々にバラして考える考え方が内在した。そして、バラした上で家族員相互の関係を考察するいわゆる関係的アプローチと、地位や役割などの概念を介して個人を家族構造にまで積分する考え方が、手を携えて登場した。これが家族の内部構造の研究として一括される新しい領域であり、ここにも戦後の家族研究の特色が見出される。

家族内部の人間関係としては親子関係と夫婦関係が主なものである。夫婦関係のうち離婚に接続するものは別項に含めたが、夫婦・親子の両関係ともみず、争い—テンションの関係として把握される傾きが強かった。それは、家族意識の変化・少年非行・離婚の増加という社会の動向を反映するものであろう。直系家族に特徴的な人間関係である嫁と姑の問題も同じ角度からとりあげられた。しかしB期の終り頃以降、結婚の幸福度を論じた文献があらわれたことは注目すべきであろう。親子関係・母子関係およびその系としての同胞関係の研究も著しく増加してきたが、これらは専ら心理学者の貢献に属する。社会学者の実証的研究は役割の概念で家族構造に接近するものであり、充分に関係そのものを問題にするに至っていない。問題にしたものもあるが、それらは概ね概説的理論的なレベルに低迷

している。しかしすでに、鉄筋アパート居住の夫婦関係を調査した増田光吉(208頁)や、夫婦・親子の両関係を3地点で比較調査した小山グループの例もある。山根常男が力説(206頁)するように、家族における人間関係の研究は今後の発展が期待される領域であろう。

7. 以上要するに、戦後の家族研究のとくに顕著な動向として次の三点が指摘されよう。

- (1) 家族の「動態的研究」が著しく盛になったこと。
- (2) 「問題の家族」の研究も、とくに都市家族を対象として盛に行なわれるようになったこと。離婚・老人問題・家族のテンションの研究も「問題の家族」と同じ線で理解できる。
- (3) 家族の内部構造の研究がかなり活発に行なわれるようになったが、人間関係の究明は心理学者の研究にはるかに立ち遅れていること。

この3つの動向は、戦後の家族制度および家族関係の変動を背景に相携えて出現し來った。アメリカでは1920年代の後半以降、バーヂェスがうち出した家族をパーソナリティズの相互作用の舞台とみる見方と、オグバーンの社会変動という概念に導かれて、離婚の統計的分析を主とした従来の研究レベルを克服して家族研究が急速に進歩したことを、われわれは想起せざるをえない。我が国における戦後の諸動向はアイディアの展開に負うよりはむしろ社会的背景の変貌によるものであったにしても、両国の家族研究の間に重要な共通点の存することを看過しえないからである。アメリカの学者が心理学者との提携によってすぐれた業績を挙げているように、われわれもまた、心理学をはじめとする隣接科学の成果を摂取して、社会学における家族研究を一層豊かにしなければならないであろう。

(1959. 6. 23)

〔附記〕 本稿は、1959年6月28日、第7回関東社会学会大会の家族部会において行った報告の原稿に、若干の加除を施したものである。